

0001 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：基礎

常緑樹と落葉樹に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア．落葉樹は一年中すべての葉を保持する。
- イ．常緑樹も葉を更新するが、一般に年間を通じて樹冠に葉を保つ。
- ウ．常緑樹は一度展開した葉を永久に落とさない。
- エ．落葉樹はすべて針葉樹である。

答え・解説 正答：イ

- ア：落葉樹は通常、一定の季節に多くの葉を落とす。
- イ：正しい。常緑樹も古い葉を落としながら更新する。
- ウ：常緑樹でも葉には寿命があり更新される。
- エ：落葉・常緑と針葉・広葉は別の分類軸である。

総合解説：植栽計画では落葉性、常緑性だけでなく、樹冠、日照、落葉量、景観目的などを総合して樹種を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：標準

建物北側で直射日光が少ない植栽地に樹種を選定する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．樹高が高ければ耐陰性を確認しなくてよい。
- イ．耐陰性を含む樹種特性と現地の日照条件を照合して選定する。
- ウ．日照条件に関係なく花色だけで選定する。
- エ．暗い場所ほど施肥量を増やせばどの樹種でも適応する。

答え・解説 正答：イ

- ア：樹高と耐陰性は同義ではない。
- イ：正しい。光環境は生育を左右するため、耐陰性との適合を確認する。
- ウ：景観性だけでなく生育条件への適合が必要である。
- エ：施肥は不足する光を代替できない。

総合解説：樹種選定は「その植物が好む環境」と「植栽地の環境」を一致させることが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：基礎

樹木の根の健全な生育に必要な植栽基盤の条件として、最も適切なものはどれか。
ア．水分を保持しつつ、過剰水を排除でき、通気性も確保されている。
イ．常に飽和状態で空気が入らない。
ウ．表層だけが硬く締め固められている。
エ．根鉢の周囲を不透水材料で完全に囲う。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。根には水分と酸素の両方が必要である。
イ：長時間の飽和は根の酸素不足を招きやすい。
ウ：過度の締め固めは根の伸長や通気を妨げる。
エ：不透水化は滞水の原因となり得る。
総合解説：植栽基盤は保水性だけでなく透水・排水・通気性を含めて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：基礎

花壇材料としての一年草と多年草の説明として、最も適切なものはどれか。
ア．一年草は必ず木質化する。
イ．一年草は一般に一生育期で生活環を終え、多年草は複数年にわたり生育する。
ウ．多年草は毎年必ず地上部が常緑である。
エ．一年草は種子を形成しない。

答え・解説 正答：イ

ア：一年草は草本であり、木質化が必須ではない。
イ：正しい。生活環の長さが大きな区分となる。
ウ：多年草でも冬季に地上部が枯れるものがある。
エ：一年草にも種子で繁殖する種類が多い。
総合解説：花壇計画では更新頻度、開花期、管理労力などを考慮して一年草と多年草を使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：標準

芝生を計画する際の芝草選定として、最も適切な考え方はどれか。

ア．地域の気候、日照、利用強度、維持管理水準を考慮して草種を選ぶ。

イ．全国一律に同一草種を用いる。

ウ．踏圧が強い場所ほど生育特性を無視して観賞用草種を選ぶ。

エ．日陰では刈高を必ず0mmに近づける。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。芝草は気候適応性や耐踏圧性などが異なる。

イ：気候条件により適否が変わる。

ウ：利用強度との適合が必要である。

エ：極端な低刈りは芝を弱らせることがある。

総合解説：芝生は「気候×利用×管理」の組合せで選定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：標準

高木の植栽材料を受け入れる際の確認として、最も適切なものはどれか。

ア．樹高だけが規格内なら他の状態は確認しない。

イ．葉が多ければ根鉢崩れは問題にしない。

ウ．幹に大きな傷があっても支柱で隠れば合格とする。

エ．樹形、樹勢、幹・枝・根鉢の損傷、病害虫の有無などを総合的に確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：品質は寸法だけでは評価できない。

イ：根鉢の損傷は活着に直接影響する。

ウ：幹の損傷は健全性や将来の腐朽に関係する。

エ：正しい。寸法だけでなく健全性・損傷の有無が重要である。

総合解説：植栽材料は設計規格とともに、生育の健全性や運搬時の損傷も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：標準

狭い園路際に高木を配置する場合の樹種選定として、最も適切なものはどれか。
ア．成木時の樹高・枝張り・根系と周辺施設との離隔を考慮する。
イ．植栽時の苗木寸法だけで判断する。
ウ．剪定ですべて調整できるため将来樹形は考慮しない。
エ．根系は地上施設と無関係なので考慮しない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。樹木は成長するため将来寸法を見込む必要がある。
イ：初期寸法だけでは将来の支障を予測できない。
ウ：過度な剪定前提の配置は管理負担や樹勢低下につながる。
エ：根上がりや構造物への影響も検討対象となる。
総合解説：植栽設計は完成時ではなく、成長後の空間利用まで見込むことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：標準

乾燥しやすい盛土地に植栽する場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．乾燥条件は樹種選定に影響しない。
イ．常時冠水させれば乾燥害を防げる。
ウ．乾燥耐性を含む樹種特性を確認し、必要な保水・灌水対策を組み合わせる。
エ．根鉢を完全に密閉すれば水分損失がなく最もよい。

答え・解説 正答：ウ

ア：水分条件は重要な生育条件である。
イ：過剰な冠水は根の酸欠を招く。
ウ：正しい。立地適応と施工・管理対策を組み合わせる。
エ：密閉は通気・排水を損なう。
総合解説：植物の耐乾性だけに頼らず、基盤・灌水・マルチング等を含む総合的な対策が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：応用

自然性の高い公園区域で植栽材料を選ぶ際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．成長が速い外来種を周辺環境に関係なく優先する。
イ．植栽後に管理すれば導入種の拡散可能性は検討不要である。
ウ．地域性より販売価格だけで樹種を決める。
エ．周辺植生、地域の環境条件、導入種の生態的特性を確認し、既存生態系との調和を図る。

答え・解説 正答：エ

ア：外来種の導入は生態系影響を含めて慎重に判断する。
イ：管理だけで拡散リスクをゼロにはできない。
ウ：価格は一要素だが生態的適合性に代わらない。
エ：正しい。自然環境では周辺植生や生態系との整合が重要である。
総合解説：自然環境に近い区域では、景観だけでなく生物多様性や地域植生との連続性を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：標準

花木を植栽する際の管理計画として、最も適切なものはどれか。
ア．すべての花木を開花直前に強剪定する。
イ．花芽の形成位置は剪定に関係しない。
ウ．樹種ごとの花芽形成時期や開花特性を把握し、剪定時期を設定する。
エ．開花後は年間を通じて一切剪定できない。

答え・解説 正答：ウ

ア：開花直前の強剪定で花芽を失う樹種がある。
イ：花芽の位置・形成時期は剪定方法に関係する。
ウ：正しい。花芽形成時期を無視した剪定は開花を損なうことがある。
エ：必要な整枝剪定は樹種特性に応じて行う。
総合解説：花木は「いつ、どの枝に花芽ができるか」を把握して管理することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：応用

歩行者利用が多く、夏季の日陰確保と冬季の日照確保を両立したい園路沿いの高木選定で、最も適切な考え方はどれか。

- ア．落葉性、樹冠形成、耐踏圧環境への適応、根系と園路の関係などを総合して選ぶ。
- イ．冬季も完全な遮光が必要として常緑性だけで決める。
- ウ．葉色だけを基準に選び、根系は施工後に切断する。
- エ．成長後の枝張りを考慮せず、植栽時に最も大きい苗を選ぶ。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。季節機能と将来の維持管理を同時に考える。

イ：要求機能と逆になる場合がある。

ウ：根系処理を前提にした計画は樹勢や舗装へ悪影響を生じ得る。

エ：苗木の大きさだけでは将来適合性を判断できない。

総合解説：利用機能を満たす植栽では、季節性、将来樹形、根系、管理性を一体で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012 植栽 > 樹木・草花 | 難易度：基礎

植物の蒸散と水分管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア．蒸散は根からの吸水と無関係である。
- イ．風が強いほど葉からの水分損失は必ず減少する。
- ウ．高温・乾燥・風などで蒸散が増える条件では、土壤水分の不足に注意する。
- エ．土壤が乾いても植物の水分状態には影響しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：蒸散と根からの吸水は植物体の水収支に関係する。

イ：風は葉面の境界層を乱し蒸散を高める場合がある。

ウ：正しい。蒸散量が増える条件では吸水とのバランスが崩れやすい。

エ：土壤水分不足は萎れや生育低下につながる。

総合解説：植栽後の灌水判断では天候、土壤、植物の状態を合わせて見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：基礎

高木の植付けにおける植穴の施工として、最も適切なものはどれか。

- ア．根鉢より小さく掘り、押し込んで固定する。
- イ．根鉢を傷めず収められ、周囲の埋戻しや排水状態を確認できるよう施工する。
- ウ．植穴底を不透水化し、必ず水がたまるようにする。
- エ．植穴に瓦礫を残して根鉢を支持する。

答え・解説 正答：イ

- ア：根鉢損傷や根系変形の原因となる。
 - イ：正しい。根鉢を損傷せず、根の伸長と排水を妨げないことが重要である。
 - ウ：滞水は根の酸欠につながる。
 - エ：瓦礫や雑物は根の伸長を妨げる。
- 総合解説：植穴は根鉢寸法だけでなく、植栽基盤の排水・土質を確認して施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：標準

樹木を植え付ける際、根元を必要以上に深植えすることが不適切な主な理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．樹木は深く植えるほど必ず根量が増えるため。
- イ．深植えすると樹高が急に低くなるため。
- ウ．根元付近の通気が悪化し、根や幹基部の健全性を損なうおそれがあるため。
- エ．根鉢の土が必ずアルカリ化するため。

答え・解説 正答：ウ

- ア：深植えが根量増加を保証することはない。
 - イ：樹高の見かけだけが主要問題ではない。
 - ウ：正しい。過度な深植えは根元環境を悪化させる。
 - エ：深植えと必然的なアルカリ化には結び付かない。
- 総合解説：設計高さで根元位置を確認し、沈下も見込んで適切な植付け高さを確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：基礎

植付け直後に十分な灌水を行う目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．根鉢を浮かせて根と土の接触を減らす。
- イ．植穴を長期間冠水状態に保つ。
- ウ．支柱を不要にする。
- エ．根鉢周囲に水を行き渡らせ、埋戻し土とのなじみをよくしつつ初期の水分を確保する。

答え・解説 正答：エ

ア：根と土の接触はむしろ確保する必要がある。

イ：長期滞水は根に有害となる。

ウ：灌水と支柱の役割は異なる。

エ：正しい。初期水分の確保と根鉢周囲の土の密着に役立つ。

総合解説：植付け後の灌水は重要だが、排水不良地では過湿にも注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：標準

植栽した高木に支柱を設置する際の施工として、最も適切なものはどれか。

- ア．幹に針金を直接強く巻き付ける。
- イ．根鉢を揺らすために支柱を緩く地表に置くだけにする。
- ウ．支柱材を樹皮へ食い込ませて固定する。
- エ．風で根鉢が動かないよう支持しつつ、結束部で幹を傷めないよう保護する。

答え・解説 正答：エ

ア：直接の強い結束は樹皮を傷つける。

イ：根鉢の動揺防止という目的を満たさない。

ウ：食い込みは幹の損傷や肥大障害につながる。

エ：正しい。支柱は活着までの安定を助け、樹皮損傷を避ける必要がある。

総合解説：支柱は「安定」と「樹体保護」を両立させ、活着後は不要な拘束を残さない管理も必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：標準

掘り取った樹木を移植先まで運搬する際の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．根鉢を露出させて風に当て乾燥させる。

イ．枝を荷台から大きく張り出したまま固定しない。

ウ．根鉢や枝葉の乾燥・損傷を防ぎ、できるだけ速やかに運搬・植付けする。

エ．掘取り後は数日間日なたに置いてから運ぶ。

答え・解説 正答：ウ

ア：根の乾燥は活着を悪化させる。

イ：枝幹の破損や交通上の危険につながる。

ウ：正しい。移植では乾燥と機械的損傷の防止が重要である。

エ：日なたでの放置は乾燥を進める。

総合解説：掘取りから植付けまでの時間を短くし、必要に応じて被覆・散水等で乾燥を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：基礎

大木移植に先立って行う「根回し」の主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．移植に備えて細根の発生を促し、掘取り可能な根鉢内に吸収根を準備する。

イ．幹を急速に太らせる。

ウ．樹高を半分に固定する。

エ．根鉢を完全に乾燥させる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。事前に根系を整え、移植後の活着性を高める目的がある。

イ：根回しの主目的ではない。

ウ：樹高を一定割合にする作業ではない。

エ：乾燥は根を弱らせる。

総合解説：大木移植では、樹種・時期・移植難易度に応じて事前準備を計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：標準

高木をクレーンで吊り上げて移植する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．細い枝一本だけにワイヤを掛ける。

イ．樹皮に直接ワイヤを食い込ませる。

ウ．幹や枝、根鉢に過大な力や傷が生じないように、適切な吊り位置と保護材を用いる。

エ．根鉢が崩れても吊上げ中に土を追加すればよい。

答え・解説 正答：ウ

ア：枝折れや落下の危険が大きい。

イ：樹皮損傷の原因となる。

ウ：正しい。吊上げ荷重を安全に受け、樹体を損傷しない方法が必要である。

エ：根鉢崩壊は根系損傷と活着不良につながる。

総合解説：移植作業は荷役安全と植物保護の両面から計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：標準

樹木の移植時期を決める際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．工期だけで決め、樹種や季節は考慮しない。

イ．真夏の高温乾燥期がすべての樹種に最適である。

ウ．凍結土壌ほど根鉢を傷めないため常に最適である。

エ．樹種の生理、生育ステージ、地域気候を踏まえ、乾燥や高温などの負担が小さい時期を選ぶ。

答え・解説 正答：エ

ア：植物生理を無視すると活着率が低下する。

イ：高温乾燥は蒸散負担を増やす。

ウ：凍結条件は施工や根系に不利となる場合がある。

エ：正しい。適期は樹種と地域条件で異なる。

総合解説：不適期施工が避けられない場合は、乾燥防止・養生・灌水など追加対策が必要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：応用

植穴を掘ると底部に水がたまり、周辺土も締め固まっていることが確認された。植付け前の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．根鉢を水中に沈めるよう深植えして安定させる。

イ．不良土をそのままにし、肥料だけを大量投入する。

ウ．排水不良と土壌硬度の原因を確認し、必要な排水・土層改良を行ってから植え付ける。

エ．支柱本数を増やせば根の酸欠も解決する。

答え・解説 正答：ウ

ア：深植えと滞水は根の障害を悪化させる。

イ：肥料は排水・硬度の問題を解決しない。

ウ：正しい。活着不良の根本原因である基盤条件を先に改善する。

エ：支柱は根鉢の安定用で、土壌通気を改善しない。

総合解説：植付け施工では、植物を入れる前に植栽基盤が根の生育に適するか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022 植栽 > 植付け・移植 | 難易度：応用

既存高木を別区画へ移植する工程管理として、最も適切なものはどれか。

ア．先に掘り取り、移植先の準備は数週間後に始める。

イ．搬入経路の幅や架空線は吊上げ当日に確認する。

ウ．植付け後の灌水は降雨の有無に関係なく計画から除外する。

エ．移植先基盤と搬入経路を先に確認し、掘取り・根鉢保護・運搬・植付け・支柱・灌水を連続的に計画する。

答え・解説 正答：エ

ア：根の乾燥と樹体負担が増える。

イ：大木搬入では経路・障害物の事前確認が不可欠である。

ウ：植付け後の水分管理は活着に重要である。

エ：正しい。掘取り後の待機時間を短くし、施工リスクを事前に除く。

総合解説：大木移植は植物施工と揚重・運搬施工を一体の工程として管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：基礎

樹木の剪定で優先的に除去を検討する枝として、最も適切なものはどれか。

- ア．健全な主幹を毎年根元から切る。
- イ．枯枝、折損枝、著しく交差して損傷を生じる枝などである。
- ウ．将来の樹形を構成する健全な主枝を無条件に全て切る。
- エ．葉のある枝は危険性に関係なく一切切らない。

答え・解説 正答：イ

- ア：主幹の除去は樹形や健全性へ重大な影響を与える。
 - イ：正しい。安全性や健全性を損なう枝を優先して処理する。
 - ウ：必要な骨格枝を無条件に除くのは不適切である。
 - エ：生葉があっても損傷・競合等で剪定対象となることがある。
- 総合解説：剪定は目的を明確にし、必要最小限の切除で樹形と健全性を保つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：標準

太い枝を切除する際、枝の自重による樹皮の裂けを防ぐ方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．最初から幹際を上から一度に切り落とす。
- イ．枝の下側だけを最後まで切り進める。
- ウ．枝をロープで強く幹に巻き付けてから放置する。
- エ．先端側の重量を段階的に落としてから最終切断する。

答え・解説 正答：エ

- ア：自重で切口下側の樹皮が大きく剥がれるおそれがある。
 - イ：工具の挟まりや裂けを生じやすい。
 - ウ：結束して放置することは剪定方法ではない。
 - エ：正しい。複数回に分けて切ることで裂けを抑えやすい。
- 総合解説：太枝は荷重を考慮し、切断時の樹皮損傷を防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：基礎

枝透かし剪定の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．込み合った枝などを枝分かれ部から間引き、樹冠内部の混み具合を調整する。
- イ．すべての枝先を同じ位置で短く切ることをいう。
- ウ．主幹を地際で切り株にする方法である。
- エ．根を環状に切断する方法である。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。枝を間引いて樹冠密度や通風・採光を調整する。

イ：これは刈込みや一律な切詰めに近い。

ウ：伐採に相当する。

エ：根の処理であり枝剪定ではない。

総合解説：剪定方法は目的に応じて使い分け、樹種固有の樹形を損なわないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：標準

前年枝に形成した花芽が翌春に開花する花木を、冬に強く切り戻したところ開花が大幅に減った。主な原因として最も適切なものはどれか。

- ア．すでに形成されていた花芽を剪定で多く除去したため。
- イ．冬季の剪定はすべての花木で開花数を増やすため。
- ウ．花芽は剪定後に必ず同じ位置へ再形成されるため。
- エ．前年枝にできる花芽は剪定の影響を受けないため。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。花芽形成後の強剪定は翌春の花数を減らすことがある。

イ：花木によって適期は異なり、冬季の強剪定が常に開花を増やすわけではない。

ウ：花芽の再形成時期・位置は樹種により異なり、直ちに補われるとは限らない。

エ：前年枝の花芽を切除すれば、翌春の開花数に影響し得る。

総合解説：花木の剪定では花芽形成時期と着生位置を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：標準

公園樹木への施肥管理として、最も適切な考え方はどれか。
ア．生育不良なら原因を調べずに最大量を施肥する。
イ．樹勢、土壌状態、植栽目的を確認し、必要性和量を判断する。
ウ．肥料は多いほど根の吸水能力が必ず上がる。
エ．土壌条件に関係なく同一量を毎月施す。

答え・解説 正答：イ

ア：過剰施肥は根傷みや徒長等を招くことがある。
イ：正しい。生育不良は排水・踏圧・病害など施肥以外の原因もある。
ウ：高濃度施肥は浸透圧などにより根へ悪影響を与える場合がある。
エ：必要量は樹種、土壌、時期等で異なる。
総合解説：施肥は診断に基づいて行い、「不調＝肥料不足」と短絡しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：標準

利用者が多い園路沿いの樹木点検で、大枝の枯れと幹基部の腐朽兆候が確認された。対応として、最も適切なものはどれか。
ア．葉が一部残っているため何もしない。
イ．見栄えを保つため枯枝を塗装して隠す。
ウ．利用状況を踏まえて危険度を評価し、必要に応じ立入制限や専門的診断・処置を行う。
エ．利用者が多いほど点検頻度を減らす。

答え・解説 正答：ウ

ア：生葉の存在だけで安全とは判断できない。
イ：外観を隠しても構造的危険は解消しない。
ウ：正しい。倒木・落枝の危険は利用者への影響と合わせて評価する。
エ：利用頻度が高い場所では安全確認の重要性が高い。
総合解説：樹木管理は生育管理だけでなく、公園利用者の安全確保を含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：応用

夏季に葉の萎れが見られる街路状の公園樹木で、根元周辺の土壌が硬く、排水口付近には泥詰まりもある。最初の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．土壌水分、排水、土壌硬度、根の状態を確認し、原因を特定してから灌水や基盤改善を行う。
- イ．萎れを見たら原因確認なしに強剪定する。
- ウ．肥料を大量に散布し、排水口はそのままにする。
- エ．毎日長時間冠水させればすべて解決する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。過湿でも乾燥でも萎れは起こり得るため診断が先である。

イ：剪定で根本原因が解消するとは限らない。

ウ：排水不良を放置した施肥は逆効果になり得る。

エ：長期冠水は根の酸欠を招く。

総合解説：維持管理では症状だけでなく、基盤・水分・根系を含めて原因を切り分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030 植栽 > 剪定・維持管理 | 難易度：応用

台風後、樹冠の一部が損傷した高木について、利用再開に向けた対応として最も適切なものはどれか。

- ア．見た目の左右対称だけを優先して健全枝も一律に切る。
- イ．折損枝や亀裂、根元の浮き上がり等を点検し、危険部を処置したうえで樹形回復を計画する。
- ウ．折れ枝が樹上に残っていても園路を直ちに開放する。
- エ．根元の変状は枝の損傷と無関係として確認しない。

答え・解説 正答：イ

ア：過剰剪定は樹勢をさらに低下させる。

イ：正しい。安全確認を先行し、その後に樹形・生育回復を考える。

ウ：落枝危険が残る状態での開放は不適切である。

エ：強風で根系や根元が損傷している可能性もある。

総合解説：災害後の樹木管理は、落枝・倒木リスクの除去と長期的な樹勢回復の両方を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：基礎

土壌pHに関する説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．土壌溶液中の塩類濃度だけを示す指標である。
- イ．土壌の酸性・アルカリ性の程度を示す指標で、植物の養分利用にも関係する。
- ウ．土壌の含水率だけを示す指標である。
- エ．土壌の締固め度だけを示す指標である。

答え・解説 正答：イ

ア：塩類濃度の目安にはECなど別の指標を用いる。

イ：正しい。pHは土壌化学性の重要な指標である。

ウ：含水率はpHとは別の水分状態の指標である。

エ：締固め度や硬度は土壌物理性として別途評価する。

総合解説：植栽基盤の改良ではpHだけでなく、物理性・養分・塩類等も併せて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：基礎

植栽土壌のEC（電気伝導度）が高い場合にまず疑うべき状態として、最も適切なものはどれか。

- ア．土壌が必ず強酸性になっている。
- イ．土壌が必ず過度に締め固められている。
- ウ．土壌中の可給態窒素量だけが低いことを示す。
- エ．可溶性塩類が多く、根の吸水に悪影響を与える可能性がある。

答え・解説 正答：エ

ア：ECとpHは別の指標であり、高ECが強酸性を意味するわけではない。

イ：ECは締固め度を直接示す指標ではない。

ウ：ECは複数の可溶性イオンの影響を受け、窒素だけを示す値ではない。

エ：正しい。ECは土壌溶液中の塩類濃度の目安として用いられる。

総合解説：過剰施肥や塩類集積が疑われる場合、ECなどを確認して原因に応じた対策を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：標準

重機走行で植栽予定地の土壌が強く締め固められた場合に生じやすい問題として、最も適切なものはどれか。

- ア．必ず土壌中の酸素が増える。
- イ．根が抵抗なく深く伸びる。
- ウ．通気・透水性が低下し、根の伸長が阻害される。
- エ．排水性が必ず向上する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：空隙が減ると酸素供給は一般に悪化する。
- イ：機械的抵抗が増えて根の伸長を妨げる。
- ウ：正しい。過度の締め固めは植栽基盤の物理性を悪化させる。
- エ：透水性が低下することが多い。

総合解説：施工ヤードとして使用した場所を植栽地に戻す場合、土壌硬度や排水を再確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：基礎

一般的な砂質土と粘質土の性質の比較として、最も適切なものはどれか。

- ア．砂質土は必ず長期間冠水し、粘質土は瞬時に乾く。
- イ．両者は粒径が同じなので性質に差はない。
- ウ．粘質土は空隙が存在しないため植物は絶対に生育できない。
- エ．砂質土は排水が速い傾向があり、粘質土は保水性が高い一方で過湿になりやすい場合がある。

答え・解説 正答：エ

- ア：一般的傾向と逆である。
 - イ：粒径組成が異なる。
 - ウ：粘質土にも空隙はあり、適切な管理で植物は生育できる。
 - エ：正しい。粒径組成は保水・排水・通気性に関係する。
- 総合解説：土壌改良では「砂を入れればよい」など単純化せず、現況土の性質を確認して材料を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：標準

十分に熟成した有機質土壌改良材を適切に用いる効果として、最も期待しやすいものはどれか。

ア．排水路の代わりとなり、地下水位を必ず下げる。

イ．土壌を完全な無機物に変える。

ウ．どの土壌でも混合量が多いほど必ず良い。

エ．土壌の団粒化や保水・保肥性の改善に寄与する。

答え・解説 正答：エ

ア：地下排水施設そのものの代替ではない。

イ：有機質を加えるので無機化する説明は誤りである。

ウ：過量使用や未熟材は問題を生じることがある。

エ：正しい。有機物は土壌物理性・化学性の改善に役立つ。

総合解説：改良材は目的・品質・混合量を確認して使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：標準

未熟な木質系有機物を大量に植栽土へ混入した場合に注意すべきこととして、最も適切なものはどれか。

ア．未熟有機物は分解せず、窒素動態に影響しない。

イ．未熟材ほど植物が利用できる窒素を必ず増やす。

ウ．分解過程で窒素が一時的に不足するなど、植物生育へ影響する可能性がある。

エ．熟成度に関係なく同量なら生育への影響は同じである。

答え・解説 正答：ウ

ア：未熟有機物も微生物分解を受け、窒素動態に影響し得る。

イ：分解時に微生物が無機態窒素を利用し、植物に利用可能な窒素が一時的に減る場合がある。

ウ：正しい。未熟有機物の分解に伴う窒素飢餓等に注意する。

エ：熟成度は分解速度や植物への影響に関係する。

総合解説：有機質改良材は十分な熟成・品質確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：標準

強い酸性土壌のpHを上げる目的で石灰質資材を使用する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．pHを測らず最大量を投入する。
- イ．酸性を直すには必ず食塩を大量に加える。
- ウ．土壌分析と対象植物の適正pHを確認し、必要量を算定して均一に施用する。
- エ．石灰を根に直接厚く接触させれば安全性が高まる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：過剰なpH上昇や養分障害を生じ得る。
 - イ：食塩は塩害の原因となる。
 - ウ：正しい。過剰施用を避け、分析に基づいて調整する。
 - エ：局所高濃度は根へ悪影響を与える可能性がある。
- 総合解説：pH調整は「適正範囲へ近づける」作業であり、多量施用そのものが目的ではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：基礎

締め固まった植栽基盤に対する深耕・耕起の主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．硬い土層をほぐして根が伸長できる土層と通気・透水性を改善する。
- イ．土壌を意図的にさらに締め固める。
- ウ．根が下層へ伸びないよう遮断層を作る。
- エ．土壌中の全有機物を除去する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。硬盤等の破砕により根系環境の改善を図る。
 - イ：目的と逆である。
 - ウ：根の伸長を促すための改良である。
 - エ：有機物除去が主目的ではない。
- 総合解説：深耕は排水条件や既設埋設物等を確認して施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：標準

造成工事前に良質な表土を別途仮置きし、植栽地へ再利用する意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．表土は必ず構造物基礎に最適なので全量を基礎下へ入れる。
- イ．植物生育に適した土壌資源を保全し、植栽基盤として有効利用できる。
- ウ．表土は乾燥・流亡しても品質に影響しない。
- エ．仮置き中は他の土砂や廃材と混合した方が品質が安定する。

答え・解説 正答：イ

ア：表土は一般に構造物基礎材として用いるものではない。
イ：正しい。表土は貴重な生育基盤資源として扱う。
ウ：乾燥・流亡・雑草種子等の管理が必要である。
エ：異物混入は品質を損なう。
総合解説：表土仮置きでは流亡・乾燥・異物混入等を防ぐ管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：標準

土壌改良材を植栽基盤へ混合する際、最も適切な施工はどれか。

- ア．改良材を一か所に山積みしてそのまま植える。
- イ．所定範囲・深さにできるだけ均一となるよう混合し、局所的な濃度差を避ける。
- ウ．表面に袋のまま置けば下層まで自然に均一化する。
- エ．根鉢直下だけに高濃度で集中させる。

答え・解説 正答：イ

ア：局所過多と未改良部分が生じる。
イ：正しい。均一性は改良効果と根への安全性の両方に関係する。
ウ：袋のままでは混合にならない。
エ：局所高濃度は根障害の原因となり得る。
総合解説：改良材は施工前に使用量・混合深さ・施工方法を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：標準

植栽地でECが高く、過剰施肥履歴も確認された。対応として最も適切なものはどれか。

ア．さらに速効性肥料を増量する。

イ．排水を止めて塩類を根域に保持する。

ウ．施肥を見直し、排水条件と水質を確認したうえで、必要に応じて塩類の洗脱等を検討する。

エ．ECは無視して葉面の色だけで判断する。

答え・解説 正答：ウ

ア：塩類濃度をさらに上げるおそれがある。

イ：排水不良では洗脱が進まない。

ウ：正しい。原因を減らし、塩類を根域から除く条件を整える。

エ：ECは塩類状態の重要な判断材料である。

総合解説：塩類集積は施肥・水質・蒸発・排水の組合せで生じるため、原因別に対策する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：応用

既存植栽が広範囲に生育不良を示す植栽地で、改良工法を決める前の調査として最も適切なものはどれか。

ア．原因を調べず全域の土を交換する。

イ．pHだけを一回測ればすべての原因を特定できる。

ウ．樹高だけを測定し、土壌は調査しない。

エ．土壌硬度、透水・排水、pH、EC、土性、根系状態などを確認して原因を絞り込む。

答え・解説 正答：エ

ア：過大な工事や原因未解決につながる。

イ：pHのみで物理性や塩類、排水は判断できない。

ウ：地上部だけで地下部の問題を確定できない。

エ：正しい。生育不良は複数要因が重なるため総合調査が必要である。

総合解説：土壌改良は「調査→評価→目標設定→工法選定」の順で行うのが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：応用

土壌分析でpHは適正範囲だが、硬度が高く降雨後に長時間滞水する植栽地がある。最も適切な改良方針はどれか。

- ア．石灰を大量に投入してpHをさらに上げる。
- イ．化学肥料だけを増やして土壌硬度を下げる。
- ウ．滞水を保つため表面を不透水シートで覆う。
- エ．pH調整ではなく、締固め・排水不良に対応した土層改良や排水対策を優先する。

答え・解説 正答：エ

ア：pHはすでに適正であり目的が合わない。

イ：肥料は締固めを解消しない。

ウ：排水不良を悪化させる。

エ：正しい。問題は主として物理性・排水性にある。

総合解説：分析結果から原因を切り分け、必要な性質だけを改良する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044 土壌・基盤 > 土壌改良 | 難易度：応用

大規模な植栽基盤改良を施工した後の品質確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．施工量だけ確認し、土壌状態や生育は一切確認しない。
- イ．植栽直後の葉色が良ければ排水試験は永久に不要とする。
- ウ．所定の改良範囲・深さを確認し、必要に応じ土壌物理・化学性や植栽後の生育状況を追跡する。
- エ．改良材の購入伝票があれば施工品質は自動的に保証される。

答え・解説 正答：ウ

ア：施工後の効果確認が必要である。

イ：初期外観だけでは長期的な基盤性能を判断できない。

ウ：正しい。改良は施工そのものではなく、目標性能が得られたかが重要である。

エ：材料購入と均一な施工は別である。

総合解説：植栽基盤は施工後の効果検証まで含めて品質管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：基礎

表面排水の主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．降雨水などを地表面の勾配や側溝等で速やかに排除する。
- イ．地下水を暗渠管で排除することだけをいう。
- ウ．地表水を植栽地の低部へ集めて貯留することをいう。
- エ．舗装下へ雨水を浸透させれば排水先を設けなくてよい。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。地表に水たまりを作らないことが基本である。

イ：これは地下排水の説明に近く、表面排水とは区別される。

ウ：低部への集中だけでは滞水を生じるため、排水先まで確保する必要がある。

エ：浸透させる場合も下層地盤や排水条件の確認が必要である。

総合解説：植栽地では表面水と地下水の両方の排水経路を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：標準

暗渠排水管を設置する際に最も重要な確認事項の一つはどれか。

- ア．管の末端を閉塞して水を貯留すること。
- イ．排水先を確認せず最も低い場所に管を埋めること。
- ウ．逆勾配にして水を植栽地へ戻すこと。
- エ．集めた水を確実に排出できる勾配と排水先が確保されていること。

答え・解説 正答：エ

ア：排水管内の滞水を招く。

イ：放流先・接続先の確認が必要である。

ウ：逆勾配は流下を妨げる。

エ：正しい。出口がなければ排水機能を発揮できない。

総合解説：排水は「集水→流下→排出」まで連続して成立して初めて機能する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：基礎

細粒土が多い地盤に透水性の高い排水材を設置する際、目詰まり防止として有効な考え方はどれか。

ア．細粒土を排水材内部へ積極的に流入させる。
イ．排水材をセメントで完全に充填する。
ウ．排水管の孔をすべて塞ぐ。
エ．周囲土の流入を抑える適切なフィルター材等を設ける。

答え・解説 正答：エ

ア：目詰まりを促進する。
イ：透水機能を失わせる。
ウ：集水できなくなる。
エ：正しい。細粒分の移動による目詰まりを抑える。
総合解説：排水設備は初期性能だけでなく、目詰まりしにくい構成と維持管理性も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：標準

降雨後に数日間滞水する植栽地で根腐れが多発している。最も優先して確認すべき事項はどれか。

ア．土壌透水性、排水経路、地下水位など根域の過湿原因である。
イ．排水状態を確認せず速効性肥料を追加する。
ウ．根腐れを乾燥害と決めつけて灌水量を増やす。
エ．土壌状態を確認せず地上部だけを強剪定する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。根腐れと長期滞水があるため根域の酸素不足を疑う。
イ：排水不良が原因なら施肥だけでは改善せず、塩類濃度を高めることもある。
ウ：過湿条件で灌水量を増やすと根の酸欠を悪化させる。
エ：地上部の剪定だけでは根域の滞水原因を解消できない。
総合解説：水やり不足と過湿は外観症状が似る場合もあるため、土壌水分を確認して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：基礎

点滴灌水の特徴として、最も適切なものはどれか。

- ア．広場全面へ大量の水を瞬時に放流する方式である。
- イ．根域付近へ比較的少量ずつ水を供給でき、水利用効率を高めやすい。
- ウ．必ず葉面だけを濡らし根域には水を与えない。
- エ．どの水質でも目詰まりが絶対に起こらない。

答え・解説 正答：イ

- ア：点滴灌水の一般的な方式ではない。
 - イ：正しい。局所的かつ計画的な給水ができる。
 - ウ：根域への供給が主目的である。
 - エ：吐出口が小さいため過や維持管理が必要な場合がある。
- 総合解説：灌水方式は対象面積、植物、水源、水質、維持管理性から選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：標準

自動灌水設備が降雨直後も毎日同量で長時間運転している。改善として最も適切なものはどれか。

- ア．年間を通じて最大流量で固定する。
- イ．降雨、土壌水分、季節、植物の状態に応じて運転時間・頻度を調整する。
- ウ．土壌が飽和していても追加灌水する。
- エ．根腐れが出たらさらに灌水量を増やす。

答え・解説 正答：イ

- ア：過湿や水の無駄を招く。
 - イ：正しい。必要水量は気象と土壌条件で変化する。
 - ウ：酸欠を悪化させる。
 - エ：根腐れ時は過湿の可能性を確認すべきである。
- 総合解説：自動化しても「自動＝固定」ではなく、センサーや季節設定などで適正化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：標準

夏季の植栽地で灌水する際の一般的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．蒸発損失や植物への負担、利用状況を考慮し、朝夕など適切な時間帯を選ぶ。

イ．日中の最も暑い時間帯だけに限定する。

ウ．強風時に散水して飛散量を最大化する。

エ．土壌水分を確認せず時刻だけで判断する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。時間帯に加え土壌状態や散水方式も考える。

イ：高温時は蒸発損失が増えやすい。

ウ：飛散による無駄が増える。

エ：必要性の確認が重要である。

総合解説：灌水計画は時刻・量・頻度・土壌水分をセットで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：標準

植栽後数年が経過し、樹木の根系が植穴外へ広がっている。点滴灌水の吐出口配置として、最も適切な考え方はどれか。

ア．植付け時の幹際1点だけに永久固定する。

イ．根系が広がるほど幹からの距離を必ず0にする。

ウ．根域と無関係に園路中央へ全吐出口を移す。

エ．根系の広がりや樹冠投影を考慮し、必要に応じて給水位置を見直す。

答え・解説 正答：エ

ア：幹際だけでは広がった根域へ十分届かない場合がある。

イ：根域の発達と逆の考え方である。

ウ：給水対象と一致しない。

エ：正しい。成長に伴い吸水根の分布も変化する。

総合解説：灌水設備も植物成長に合わせて調整・点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：応用

透水性の低い植栽地で自動灌水を増やしたところ、葉の黄化と根腐れが増えた。最も適切な対応はどれか。

ア．黄化を水不足と決めつけ、さらに灌水量を増やす。

イ．排水口を塞いで水分を保持する。

ウ．灌水量を見直すとともに、土壌透水性と排水経路を改善して根域の過湿を解消する。

エ．根域の状態を調べず葉面洗浄だけ続ける。

答え・解説 正答：ウ

ア：過湿を悪化させる。

イ：滞水を増やす。

ウ：正しい。給水と排水のバランスが崩れている可能性が高い。

エ：根本原因の解消にならない。

総合解説：健全な根域には必要水分と空気の両方が必要であり、灌水と排水は一体で考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054 土壌・基盤 > 排水・灌水 | 難易度：応用

乾燥地域の植栽地で、灌水を続けるほど土壌ECが上昇している。調査として最も適切なものはどれか。

ア．灌水水質は土壌ECと無関係なので確認しない。

イ．排水を止めて塩類を根域に蓄積させる。

ウ．EC上昇への対策として肥料濃度をさらに上げる。

エ．灌水水の塩類濃度、施肥量、排水・洗脱条件を併せて確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：水質は塩類収支に影響する。

イ：洗脱を妨げる。

ウ：塩類濃度をさらに高める。

エ：正しい。灌水水由来の塩類や排水不足が集積に関与することがある。

総合解説：塩類管理では水の入力と排出の両方を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：基礎

法面緑化の主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．不安定な地山を緑化だけで必ず構造的に安定させる。
- イ．雨水をすべて法面内部へ浸透させる。
- ウ．法面上の排水施設を不要にする。
- エ．植生によって表面侵食を抑制し、景観や環境の回復を図る。

答え・解説 正答：エ

ア：地盤自体が不安定なら別途安定対策が必要である。
イ：過剰浸透は不安定化の要因になる場合がある。
ウ：排水計画は法面安定に重要である。
エ：正しい。緑化は侵食防止や景観・環境改善に有効である。
総合解説：法面緑化は法面安定・排水計画と組み合わせて行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：標準

法面へ植生基材を施工する前の処理として、最も適切なものはどれか。

- ア．浮石や崩れやすい部分を処理し、設計形状と安定性を確認して施工面を整える。
- イ．浮石を残して基材で隠す。
- ウ．法面勾配を確認せず施工を始める。
- エ．湧水箇所を塞いで水を法面内部に閉じ込める。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。緑化材の施工前に法面そのものの状態を整える必要がある。
イ：施工後の落石・剥離原因となる。
ウ：安定性や工法適合性の判断ができない。
エ：湧水は適切に排水処理する必要がある。
総合解説：法面緑化は下地となる法面の安定と排水が前提である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：標準

法面緑化工法を選定する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．勾配、土質、侵食性、気候、施工時期、目標植生などを総合して選ぶ。
- イ．法面条件に関係なく常に同じ工法を使う。
- ウ．勾配が急になるほど基盤安定性の確認を省略する。
- エ．景観色だけで工法を決める。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。工法ごとに適用条件が異なる。
 - イ：条件不適合で剥離や生育不良を起こし得る。
 - ウ：急勾配ほど安定性の検討が重要である。
 - エ：景観以外に施工・生育条件の確認が必要である。
- 総合解説：工法選定では施工直後だけでなく、植生成立までの侵食防止性能も考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：標準

寒冷地の法面に播種する種子配合を決める際、最も適切な対応はどれか。

- ア．温暖地向け種を適応確認なしで全国共通使用する。
- イ．発芽率や種子品質を確認しない。
- ウ．地域気候、発芽・生育特性、目標植生を確認して適した種を選ぶ。
- エ．長期植生を考えず最も早く発芽する1種だけに固定する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：越冬性等の問題が生じる。
 - イ：施工数量・成立率へ影響する。
 - ウ：正しい。気候適応性と植生目標の両方を考える。
 - エ：早期被覆だけで長期安定性を保証できない。
- 総合解説：法面緑化では早期侵食防止と長期的な植生成立を両立させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：基礎

法面上部の排水施設の役割として、最も適切なものはどれか。

- ア．雨水を法面の一箇所へ集中させる。
- イ．上方から流入する表面水を適切に集排水し、法面への集中流入を抑える。
- ウ．湧水を法面内部へ封じ込める。
- エ．緑化後は排水をすべて撤去する。

答え・解説 正答：イ

- ア：侵食を助長する。
 - イ：正しい。集中した表面流は侵食や法面不安定化を招く。
 - ウ：水圧上昇等の原因となり得る。
 - エ：緑化後も排水機能は必要である。
- 総合解説：法面の水対策は緑化工と同等に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：標準

播種による法面緑化施工後の初期管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．施工完了後は植生成立まで一切確認しない。
- イ．降雨で一部流失しても補修しない。
- ウ．発芽・被覆状況、侵食、乾燥、剥離等を確認し、必要に応じ補修や養生を行う。
- エ．未発芽箇所はすべて薬剤で枯らす。

答え・解説 正答：ウ

- ア：施工後の確認が品質確保に重要である。
 - イ：未被覆部から侵食が進むおそれがある。
 - ウ：正しい。初期段階は降雨・乾燥の影響を受けやすい。
 - エ：目的と逆である。
- 総合解説：緑化工は施工時点では未完成であり、植生成立を確認して性能を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：応用

亀裂と小規模崩落が見られる急勾配法面を緑化する計画について、最も適切な対応はどれか。

ア．植生マットだけで構造的安定性も必ず確保できると判断する。

イ．亀裂を土で隠し、原因調査なしに播種する。

ウ．地盤・法面の安定性を評価し、必要な安定対策や排水を講じたうえで緑化工を選定する。

エ．崩落部へ灌水を集中して植生を促す。

答え・解説 正答：ウ

ア：不安定要因が残れば崩壊リスクは解消しない。

イ：変状原因の把握が必要である。

ウ：正しい。緑化は構造的安定対策の代替ではない。

エ：水の集中は不安定化を招く。

総合解説：法面緑化の前提は地盤の安定であり、緑化・排水・構造対策を役割分担して組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062 土壌・基盤 > 法面緑化 | 難易度：応用

播種法面の施工直後に豪雨が予想される。最も適切な施工管理はどれか。

ア．気象予報と法面条件を踏まえて施工時期を見直し、必要なら侵食防止の仮設・養生を追加する。

イ．工程優先で豪雨直前に施工し、養生は行わない。

ウ．豪雨時に法面上部から追加散水する。

エ．流失しても出来形寸法が合えば品質上問題ないとする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。施工直後は植生が未成立で侵食されやすい。

イ：品質と安全を損なう可能性が高い。

ウ：侵食を助長する。

エ：法面緑化は植生基材・種子の残存と成立が重要である。

総合解説：法面緑化の品質は気象条件に大きく左右されるため、工程と養生を一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：基礎

園路舗装の路床・路盤を適切に締め固める主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．舗装下に空洞を多く残す。
- イ．雨水を必ず路盤内に滞留させる。
- ウ．仕上げ舗装の厚さを0にする。
- エ．支持力と均一性を確保し、沈下や不陸を抑える。

答え・解説 正答：エ

ア：空洞は局部沈下の原因となる。

イ：滞水は路盤・路床を弱める場合がある。

ウ：表層舗装の代替ではない。

エ：正しい。基礎部の安定は舗装の耐久性に直結する。

総合解説：園路は表面材だけでなく路床・路盤・排水を含む構造として施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：基礎

園路表面に水たまりが頻発している。施工上の確認として最も適切なものはどれか。

- ア．舗装色だけを変更する。
- イ．排水口を高い位置へ移して逆勾配にする。
- ウ．水たまり部分をさらにくぼませる。
- エ．縦横断勾配、不陸、側溝や集水柵への流れを確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：色は排水機能を改善しない。

イ：逆勾配では排水されにくい。

ウ：滞水を悪化させる。

エ：正しい。表面排水経路の不具合を確認する。

総合解説：園路・広場では完成面の勾配と排水施設の高さを連続的に整合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：標準

高齢者や車いす利用者を含む歩行者が多い園路の舗装選定として、最も適切な考え方はどれか。

ア．外観だけで表面の凹凸が極端に大きい材料を選ぶ。

イ．平坦性、滑りにくさ、段差、排水性、維持管理性を総合して選定する。

ウ．濡れる場所でも滑り抵抗を確認しない。

エ．段差が大きいほど移動しやすいと判断する。

答え・解説 正答：イ

ア：過大な凹凸は移動を妨げる。

イ：正しい。利用者の安全・移動しやすさが重要である。

ウ：湿潤時の滑りにも配慮する。

エ：段差は移動障害となる。

総合解説：公園園路は景観と同時に安全性・アクセシビリティを満たす必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：基礎

透水性舗装の説明として、最も適切なものはどれか。

ア．表面から水を一切通さない舗装である。

イ．雨水を舗装面から下層へ浸透させる機能を持つが、下層の排水・地盤条件も重要である。

ウ．下層が常に飽和しているほど性能が高い。

エ．目詰まりしても透水性能は変化しない。

答え・解説 正答：イ

ア：透水性の説明と逆である。

イ：正しい。舗装単体だけでなく路盤・路床条件が性能を左右する。

ウ：排水不能な下層では機能が発揮されにくい。

エ：目詰まりで透水性は低下し得る。

総合解説：透水性舗装では浸透先と維持管理まで含めて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：標準

園路縁石を施工したところ、通りが蛇行し、隣接舗装との段差もばらついた。改善として最も適切なものはどれか。

- ア．舗装後に見えなくなるためそのままにする。
- イ．縁石を固定せず土の上に置くだけにする。
- ウ．基準線・高さを再確認し、据付け前の基礎と位置出しを適切に管理する。
- エ．段差を増やして視認性を高める。

答え・解説 正答：ウ

ア：段差や景観・排水不良の原因となる。
イ：沈下・移動しやすくなる。
ウ：正しい。縁石は園路線形・仕上げ高さを構成する重要部材である。
エ：歩行安全上不適切である。
総合解説：縁石は基礎、通り、高さ、目地を施工段階で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：基礎

- コンクリート系園路を打設した直後の養生として、最も適切なものはどれか。
- ア．急激な乾燥や低温等から保護し、必要な硬化条件を確保する。
 - イ．打設直後から一般利用へ開放する。
 - ウ．表面を急速に乾かすため強風を当て続ける。
 - エ．硬化前に重機を走行させ締固める。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。適切な養生は強度・耐久性確保に重要である。
イ：十分な強度が得られる前の開放は損傷を招く。
ウ：急乾燥はひび割れ等の原因になる。
エ：硬化前の荷重は変形・損傷を生じる。
総合解説：コンクリート舗装は打設後の養生までが施工である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：標準

自然石を用いた園路舗装で、がたつきを防ぐための施工として最も適切なものはどれか。
ア．石の四隅だけを点で支え、中央下に大きな空洞を残す。
イ．支持層や敷き材を適切に整え、石材を安定させて目地と仕上げ高さを管理する。
ウ．厚さの異なる石を基礎調整せずそのまま並べる。
エ．歩行面の突起を意図的に大きくする。

答え・解説 正答：イ

ア：局部荷重でがたつきや割れを生じやすい。
イ：正しい。全面的な安定支持と仕上げ管理が重要である。
ウ：不陸・段差につながる。
エ：転倒リスクを高める。
総合解説：自然材料は寸法ばらつきがあるため、据付け時の調整が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：標準

大面積の舗装広場で排水計画を行う際、最も適切な考え方はどれか。
ア．広場中央に排水先のない低地をつくる。
イ．全周を高い縁石で囲い水をためる。
ウ．表面勾配と集水施設を組み合わせ、利用を妨げない位置へ水を導く。
エ．勾配を無視し、雨水は蒸発だけに任せる。

答え・解説 正答：ウ

ア：水たまりを形成する。
イ：冠水の原因となる。
ウ：正しい。広場は面積が大きいため計画的な集排水が必要である。
エ：豪雨時に対応できない。
総合解説：広場排水では勾配が利用上過大にならないことにも注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：標準

園路の舗装境界に局所的な2cm程度の段差が生じた。管理上の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．つまずきや車いす通行への影響を評価し、原因を確認して段差を解消する。
- イ．小さい段差なので利用者層に関係なく放置する。
- ウ．目立たなくするため同色塗料を塗るだけにする。
- エ．段差をさらに高くして境界を明確にする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。小さな段差でも転倒・移動障害になる。

イ：利用者によっては重大な障害となる。

ウ：構造的段差は残る。

エ：安全性を悪化させる。

総合解説：園路維持管理では不陸、陥没、根上がり等を早期に把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：応用

園路沿いの樹木根が舗装を持ち上げ、段差が繰り返し発生している。最も適切な対策検討はどれか。

- ア．原因根を毎年無条件に幹際で切断する。
- イ．根系・植栽基盤・舗装構造・利用安全を調査し、樹木を傷めない範囲で根域確保と舗装修繕を組み合わせる。
- ウ．舗装だけを毎回薄く削り、根系は調べない。
- エ．段差を放置して注意看板だけ永久設置する。

答え・解説 正答：イ

ア：太根切断は樹勢や支持力を損なうおそれがある。

イ：正しい。根と舗装の空間競合を根本的に改善する必要がある。

ウ：再発原因が残る。

エ：暫定措置だけでは恒久対策にならない。

総合解説：植栽と園路は別々に考えず、将来の根系空間を確保して設計・改修する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：標準

既存公園内で園路改修を行う際、近接する樹木や埋設管への対応として最も適切なものはどれか。

ア．既設物位置を事前確認し、根・管路等を損傷しない施工範囲・機械使用方法を計画する。

イ．図面確認なしに掘削し、当たった時点で判断する。

ウ．樹木根はすべて不要物として切断する。

エ．埋設管上に重機荷重を無条件に集中させる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。既設物損傷を防ぐ事前調査が必要である。

イ：事故・供給停止等につながる。

ウ：重要根の切断は樹木を弱らせる。

エ：管路破損を招く可能性がある。

総合解説：公園改修では利用施設だけでなく地下・植栽の既存資産も保護対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074 公園施設 > 園路・広場 | 難易度：応用

園路完成時の最終確認として、最も適切なものはどれか。

ア．幅員だけ合えば排水や段差は確認しない。

イ．見た目がきれいなら設計高さとの差は問わない。

ウ．線形・幅員・高さ・勾配・平坦性・排水・段差・仕上げ状態を利用安全の観点から総合確認する。

エ．排水試験は雨天時でも水たまりを確認しなくてよい。

答え・解説 正答：ウ

ア：幅員だけでは機能を保証できない。

イ：高さは接続部や排水に影響する。

ウ：正しい。複数の出来形・機能が連動して園路性能を構成する。

エ：実際の排水状態の確認は重要である。

総合解説：園路の品質は寸法だけでなく、排水・安全・仕上げまで含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：基礎

都市公園の遊具の安全確保に関する考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．子どもの遊びの特性を踏まえつつ、重大事故につながる危険を低減する。

イ．危険をすべてなくすため遊具利用を常に禁止する。

ウ．子どもは自己責任なので管理者の点検は不要とする。

エ．遊具は設置時に確認すれば以後の劣化点検は不要である。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。遊びの価値を保ちつつ、事故につながる危険を管理する。

イ：遊びそのものを否定する考え方ではない。

ウ：施設管理として安全確保が必要である。

エ：経年劣化があるため点検が必要である。

総合解説：遊具安全では設計・施工・点検・補修を継続的に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：標準

遊具を設置する際の基礎・固定として、最も適切なものはどれか。

ア．地表に置くだけで自重に任せる。

イ．コンクリートが硬化する前から一般利用を開始する。

ウ．設計された位置・高さ・鉛直等を確認し、使用時荷重に耐えるよう確実に固定する。

エ．固定ボルトは手で回る程度に緩めておく。

答え・解説 正答：ウ

ア：転倒・移動の危険がある。

イ：基礎強度不足や変位の原因となる。

ウ：正しい。使用時の動的荷重を考慮した確実な設置が必要である。

エ：緩みは構造安全性を損なう。

総合解説：遊具組立設置では基礎、アンカー、締結、仕上げを施工後に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：基礎

ぶらんこ等の動きのある遊具周囲の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．可動部の直前にベンチを密着配置する。
- イ．遊具の動作範囲や利用者の動線を考慮し、衝突を避けるため必要な空間を確保する。
- ウ．遊具同士を動作範囲が重なるように配置する。
- エ．出入口を可動部の軌道の上に設ける。

答え・解説 正答：イ

ア：衝突リスクが高まる。

イ：正しい。遊具の運動方向と利用者の通行を分離する。

ウ：遊具利用者同士の衝突につながる。

エ：通行者が可動部と接触しやすい。

総合解説：遊具配置では個々の遊具だけでなく、周辺の安全領域と動線を計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：標準

遊具の施工後点検で、ボルト端部が大きく突出している箇所が見つかった。対応として最も適切なものはどれか。

- ア．衣服の引っ掛けたりや接触傷の危険を評価し、設計仕様に従って安全な納まりへ修正する。
- イ．突出部をそのままにし、塗装だけ行う。
- ウ．利用者が注意すればよいとして放置する。
- エ．さらに長いボルトへ交換して目立たせる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。突出部は接触・引っ掛けりのハザードとなる。

イ：塗装では形状上の危険は解消しない。

ウ：施設側で除去可能な危険は対処する。

エ：危険を増やす。

総合解説：遊具の安全点検では構造強度だけでなく、挟み込み・引っ掛けり・突起等も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：基礎

落下の可能性がある遊具の下部・周囲に衝撃を緩和する床材を設ける主な目的はどれか。
ア．転落時に利用者へ加わる衝撃を低減する。
イ．遊具の高さを実際より高く見せる。
ウ．基礎コンクリートを露出させる。
エ．雨水を遊具基礎へ集中させる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。落下時の傷害程度を軽減するためである。
イ：視覚効果が目的ではない。
ウ：硬い基礎露出は傷害リスクを高める。
エ：排水上も不適切である。
総合解説：床材の性能は遊具の落下高さや利用状況に応じて維持する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：標準

金属製遊具の支柱地際部に著しい腐食が確認された。最も適切な対応はどれか。
ア．表面に泥を塗って腐食を隠す。
イ．地際は見えにくい点検対象外とする。
ウ．残存強度や腐食範囲を確認し、必要に応じ使用停止・補修・交換を行う。
エ．利用者が少なければ構造劣化は無視する。

答え・解説 正答：ウ

ア：危険を隠すだけである。
イ：むしろ水分が滞留しやすく注意が必要な部位である。
ウ：正しい。地際は腐食により断面欠損が進行することがある。
エ：利用頻度に関係なく構造安全性は必要である。
総合解説：遊具は見た目だけでなく、接合部・地際部・可動部等の劣化を継続点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：標準

園路沿いにベンチを設置する際の配置として、最も適切なものはどれか。

- ア．園路の有効幅を完全に塞ぐ位置に置く。
- イ．通行幅を確保し、利用者が安全に接近・休憩できる平坦な場所に配置する。
- ウ．急勾配の横断面上に脚を不安定なまま置く。
- エ．車いす利用者の接近空間を考慮しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：通行障害となる。
 - イ：正しい。休憩利用と通行の両立が必要である。
 - ウ：転倒・がたつきの原因となる。
 - エ：移動等円滑化の観点から配慮が必要である。
- 総合解説：ベンチは「置ける場所」ではなく、動線・勾配・周辺空間を含めて配置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：標準

夏季に直射日光を受ける金属製ベンチや遊具について、管理上最も適切な考え方はどれか。

- ア．金属は直射日光でも表面温度が変わらないと考える。
- イ．表面温度上昇によるやけど等の危険を考慮し、日陰・材料・利用時の注意等を検討する。
- ウ．高温になるほど安全性が高まる。
- エ．暑熱条件は子どもの利用安全と無関係である。

答え・解説 正答：イ

- ア：日射により高温になることがある。
 - イ：正しい。夏季の表面温度は接触傷害につながる場合がある。
 - ウ：高温は危険要因となり得る。
 - エ：利用者が触れる施設では重要である。
- 総合解説：公園施設の安全は構造だけでなく、季節・気象による利用環境も含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：応用

新設した複合遊具の供用開始前検査として、最も適切なものはどれか。

ア．基礎・締結・可動部・突出部・安全領域・着地面・周辺動線を総合的に確認する。

イ．塗装色だけを確認して供用開始する。

ウ．完成写真が撮れればボルトの締結は確認しない。

エ．遊具本体だけ確認し、周囲の舗装やベンチ配置は見ない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。遊具事故は本体だけでなく周辺環境とも関係する。

イ：安全性を評価できない。

ウ：締結不良は重大な構造危険となる。

エ：衝突・転落後の傷害は周辺条件に左右される。

総合解説：供用開始前に施工品質と利用安全を一体で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084 公園施設 > 遊具・休憩施設 | 難易度：応用

長年使用した木製遊具で、複数箇所に腐朽、接合部の緩み、床材の劣化が同時に確認された。対応として最も適切なものはどれか。

ア．すべて塗装で覆えば構造安全性も回復すると判断する。

イ．一番目立つ箇所だけ直し、他の劣化は記録しない。

ウ．遊具は古いほど安全性が高いとして供用を継続する。

エ．個別補修だけで安全を確保できるか総合評価し、必要なら使用停止して大規模補修や更新を検討する。

答え・解説 正答：エ

ア：塗装は腐朽による断面欠損を回復しない。

イ：残存リスクを見落とす。

ウ：経年劣化は安全性低下の要因となる。

エ：正しい。複数劣化がある場合は施設全体の健全性を評価する。

総合解説：遊具維持管理では点検履歴を蓄積し、部分補修と更新の境界を適切に判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085 公園施設 > 水景・修景 | 難易度：基礎

循環式の池や噴水で水を循環させる主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．水を長期間完全に停滞させるため。
- イ．水を再利用しながら、ろ過・水質管理や水景演出を行うため。
- ウ．排水口を不要にするため。
- エ．ポンプ点検を不可能にするため。

答え・解説 正答：イ

ア：停滞は水質悪化を招きやすい。

イ：正しい。循環系は水景機能と水質・維持管理に関係する。

ウ：清掃・非常時等の排水機能は必要である。

エ：維持管理可能な配置が必要である。

総合解説：水景施設は給水・循環・ろ過・排水・清掃を一体で考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086 公園施設 > 水景・修景 | 難易度：標準

コンクリート製の修景池を施工する際、防水層の施工で最も重要な考え方はどれか。

- ア．配管貫通部だけ防水を切り欠いておく。
- イ．下地のひび割れや突起を無視して施工する。
- ウ．下地、継ぎ目、貫通部を適切に処理し、漏水のない連続した防水層を確保する。
- エ．防水層は部分的に途切れていても水位に影響しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：貫通部はむしろ重点的な納まりが必要である。

イ：下地不良は防水層破損の原因となる。

ウ：正しい。漏水は弱点部から生じやすい。

エ：連続性が防水性能に重要である。

総合解説：水景の防水は面だけでなく、目地・配管・端部の詳細施工が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087 公園施設 > 水景・修景 | 難易度：基礎

池や水盤にオーバーフロー設備を設ける主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．通常水位を超えた水も池内に保持する。
- イ．池底排水口の代わりとして池を完全排水する。
- ウ．循環流量を一定にするためだけに設ける。
- エ．降雨や給水過多による水位上昇を抑え、所定水位を超えた水を排出する。

答え・解説 正答：エ

- ア：オーバーフローは過剰水を逃がす設備であり、保持するものではない。
- イ：池底排水とは役割が異なり、完全排水のためだけの設備ではない。
- ウ：循環流量制御とは別に、水位上昇時の越流水を処理する役割がある。
- エ：正しい。水位を一定範囲に保つための安全な逃げ道となる。

総合解説：水景施設では通常運転だけでなく、豪雨時・停止時の水の行き先も計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088 公園施設 > 水景・修景 | 難易度：標準

利用者が近づける修景池の水際仕上げとして、最も適切なものはどれか。

- ア．乾燥時だけの見た目で材料を決める。
- イ．水際ほど表面を鏡面状に磨き滑りやすくする。
- ウ．排水勾配を池と反対側の通路へ向けて水たまりを作る。
- エ．濡れた状態での滑りにくさ、段差、転落リスク、排水を考慮して仕上げる。

答え・解説 正答：エ

- ア：実際の使用条件を反映していない。
 - イ：滑り抵抗が低下しやすい。
 - ウ：通路冠水・滑りを招く。
 - エ：正しい。水際は常時湿潤しやすく滑り事故に注意が必要である。
- 総合解説：水景の魅力と利用者安全を両立させる材料・納まりが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089

公園施設 > 水景・修景 | 難易度：標準

噴水ポンプやろ過設備の配置として、最も適切なものはどれか。

- ア．設備を永久に密閉して取り出せない場所に設置する。
- イ．点検・清掃・交換が安全に行えるアクセスと作業空間を確保する。
- ウ．点検口を舗装で完全に塞ぐ。
- エ．電気設備を常時冠水する位置に無対策で置く。

答え・解説

正答：イ

- ア：故障時に保守できない。
 - イ：正しい。機械設備は必ず維持管理が発生する。
 - ウ：点検不能となる。
 - エ：感電・故障等の危険がある。
- 総合解説：水景設備は意匠だけでなく、保守・交換動線を設計段階から確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090

公園施設 > 水景・修景 | 難易度：標準

循環池で藻類が増え、水の濁りと臭気が目立つようになった。対応として最も適切なものはどれか。

- ア．原因を確認せず薬剤だけを常時増量する。
- イ．循環・ろ過状態、栄養塩、日照、清掃状況等を確認し、原因に応じて水質管理を行う。
- ウ．ろ過装置を停止し、水の循環量を減らす。
- エ．堆積物の除去を行わず、補給水だけを増やす。

答え・解説

正答：イ

- ア：薬剤処理が必要な場合でも、発生原因や使用条件を確認せず増量するのは適切でない。
 - イ：正しい。水質悪化は複数要因から生じる。
 - ウ：循環・ろ過の低下は水質悪化を招くことがある。
 - エ：堆積物を放置したまま補給水だけ増やしても、根本原因が残る。
- 総合解説：水景施設の維持管理では設備運転と清掃・水質確認を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091 公園施設 > 水景・修景 | 難易度：基礎

大型の景石を修景目的で据え付ける際の施工として、最も適切なものはどれか。

ア．見える面だけ重視し、不安定な一点支持とする。

イ．利用者が触れる場所でも転倒安定性を確認しない。

ウ．軟弱な表土上に大型石をそのまま置く。

エ．安定した基礎・根入れ・支持状態を確保し、転倒や沈下が生じないよう据え付ける。

答え・解説 正答：エ

ア：転倒・回転しやすい。

イ：接触による事故につながる。

ウ：不同沈下や転倒の原因となる。

エ：正しい。景観施設でも構造的安定が必要である。

総合解説：修景施設は見栄えと安全・耐久性を同時に満たす必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092 公園施設 > 水景・修景 | 難易度：応用

園路脇に浅い流れを新設する計画で、飛沫が園路を濡らし、落葉が取水口へ集まりやすいことが予想される。最も適切な対応はどれか。

ア．水流・風向・園路離隔・排水・落葉対策・清掃性を調整し、濡れと目詰まりを抑える。

イ．飛沫は景観効果なので滑り対策を考えない。

ウ．取水口を落葉が集まる最下流に目詰まり対策なしで設ける。

エ．清掃動線を設けず、詰まりは自然解消に任せる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。水景は周辺利用と維持管理を含めて計画する。

イ：園路の滑り危険につながる。

ウ：目詰まり・ポンプ不具合の原因となる。

エ：定期的な清掃が必要である。

総合解説：修景施設では「見せ方」と「安全・維持管理」を分離せず、相互影響を事前に検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093

景観・設計 > 造園計画 | 難易度：基礎

造園計画の初期段階で行う現況調査として、最も適切なものはどれか。

- ア．完成後の維持管理方法だけを先に決定し、現況は施工時に確認する。
- イ．地形、既存植生、利用状況、周辺環境などを把握し、計画条件を整理する。
- ウ．植栽樹種だけを調査し、地形や人の動線は対象外とする。
- エ．敷地面積のみを確認すれば、基本計画に必要な条件は十分である。

答え・解説

正答：イ

- ア：現況を把握せずに計画を固めると、地形や既存資源との不整合が生じやすい。
- イ：正しい。現況調査は設計条件や保全対象、利用上の課題を把握する基礎となる。
- ウ：造園計画では自然条件だけでなく利用・動線・周辺条件も重要である。
- エ：面積だけでは高低差、既存施設、利用実態、環境条件等を把握できない。

総合解説：造園計画では、対象地の自然条件・社会条件・利用条件を把握したうえで、保全・整備・利用の方針を組み立てる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094

景観・設計 > 造園計画 | 難易度：基礎

静かな休養空間と活発な球技空間を同一公園内に配置する場合のゾーニングとして、最も適切なものはどれか。

- ア．利用者が多い空間ほどすべて公園中央に集中させる。
- イ．静的利用と動的利用を隣接させ、境界をなくすことを原則とする。
- ウ．園路を介さず、それぞれのゾーンを完全に孤立させる。
- エ．活動特性や騒音、安全性を考慮し、必要な距離や緩衝空間を設けて配置する。

答え・解説

正答：エ

- ア：集中配置が常に適切とは限らず、騒音や交錯、混雑の問題が生じる。
 - イ：用途の性格が異なる場合は緩衝や分離が有効なことがある。
 - ウ：分離は必要でも、利用者の到達性や公園全体の回遊性を失わせるのは適切でない。
 - エ：正しい。利用目的の異なる空間は相互干渉を抑えながら、全体動線との関係も考慮して配置する。
- 総合解説：ゾーニングでは、活動の性質、騒音、危険性、利用者層、到達性などを総合して、相互干渉を抑えつつ使いやすい空間構成とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：基礎

入口から広場・休憩施設・遊具を結ぶ公園園路を再編する。利用者が目的地へ到達しやすく、回遊もできる計画として最も適切なものはどれか。

ア．園路は景観上目立たないことを最優先し、主要施設への最短経路は考慮しない。

イ．すべての園路を同じ幅・同じ機能に統一する。

ウ．行き止まりを多く設けるほど回遊性が高くなる。

エ．主要な出入口と主要施設を結び動線を明確にし、必要に応じて回遊できる経路も組み合わせる。

答え・解説 正答：エ

ア：利用上の分かりやすさやアクセス性も重要な計画条件である。

イ：主動線、補助動線、管理動線など役割に応じて構成を検討する。

ウ：行き止まりは一般に回遊性を低下させる。

エ：正しい。目的地への分かりやすさと公園内の回遊性の両立が重要である。

総合解説：園路は単なる舗装線ではなく、施設配置、利用者の行動、バリアフリー、安全、景観体験を結び付ける骨格である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：標準

計画地に健全で景観価値の高い既存大径木があり、その近くに園路を新設する。計画上の対応として最も適切なものはどれか。

ア．根系や樹冠への影響を調査し、可能な範囲で線形や施工方法を調整して保全する。

イ．大径木は施工の障害になるため、健全度に関係なく原則伐採する。

ウ．幹に接する位置まで舗装すれば根を固定できるので保全に有利である。

エ．樹冠だけを残せばよいので、根系への掘削影響は考慮しなくてよい。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。既存樹木は計画資源であり、根系保護や施工影響を踏まえて保全方法を検討する。

イ：既存資源の価値を評価せず一律に伐採するのは適切でない。

ウ：根元の過度な舗装や締固めは根系環境を悪化させるおそれがある。

エ：樹木の安定と健全性には根系の保全が不可欠である。

総合解説：既存樹木を活かす計画では、健全度、景観価値、根系範囲、施工影響、利用者安全を総合して保全・更新を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：標準

造園施設の計画でライフサイクルを考慮する考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．初期費用が最小なら、維持管理費が大きくても比較する必要はない。
- イ．維持管理は完成後に管理者が決めるため、設計段階では考慮しない。
- ウ．初期整備費だけでなく、点検、補修、更新、植栽管理など将来の維持管理も考慮する。
- エ．植栽は時間とともに成長するため、完成時の姿だけを基準に配置する。

答え・解説 正答：ウ

ア：初期費用だけの比較では長期的な合理性を判断できない。

イ：点検性や更新性は配置・材料・構造の選択に関係するため、計画段階から考慮する。

ウ：正しい。長期的な安全性と利用性を確保するには、整備後の管理負担まで計画段階で検討する。

エ：成長後の樹形や管理空間も含めて計画する必要がある。

総合解説：造園は植物の成長や施設の劣化を伴うため、計画時点から維持管理・更新・安全点検を組み込むことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：標準

地域公園の再整備計画で利用者ニーズを把握する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．最も声の大きい一つの意見だけを計画条件として採用する。
- イ．既存公園の利用実態は変化するため、調査せず設計者の経験だけで決める。
- ウ．住民意見を聞く場合は、法令・安全条件との整合確認は不要である。
- エ．現地観察や利用実態調査に加え、住民・利用者の意見を把握し、計画条件として整理する。

答え・解説 正答：エ

ア：特定意見だけでは多様な利用者ニーズを代表できない。

イ：客観的な現況把握を省くと計画の妥当性が低下する。

ウ：意見は重要だが、安全性や法令・技術条件との整合も必要である。

エ：正しい。利用者の声だけでなく、実際の利用行動や安全・環境条件と組み合わせることが重要である。

総合解説：参加型の造園計画では、多様な意見を収集し、現地条件・安全性・維持管理性と照合して計画に反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：標準

地域の防災性向上も期待される公園の計画として、最も適切なものはどれか。
ア．防災利用を想定する区域は、平常時には利用できないよう常時閉鎖する。
イ．災害時の大型車両動線上に固定式の施設を密集配置する。
ウ．防災機能があれば植栽や日陰など日常の快適性は不要である。
エ．日常の利用性を確保しつつ、避難・応急活動等に必要なオープンスペースや動線を阻害しない配置とする。

答え・解説 正答：エ

ア：防災機能を持つ公園でも、通常は日常利用との両立が基本である。
イ：応急活動を妨げる配置は防災機能を低下させる。
ウ：公園は平常時にも利用されるため、日常の快適性も重要である。
エ：正しい。防災機能は日常利用と切り離すのではなく、平常時の公園機能と両立させて計画する。
総合解説：防災に配慮した公園計画では、平常時のレクリエーション機能と災害時の避難・活動機能の両立を図る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：標準

予算制約のため大規模公園を数期に分けて整備する。段階整備の考え方として最も適切なものはどれか。
ア．第1期で全敷地を掘削し、未施工部分は長期間そのままにする。
イ．各期を独立して設計し、最終的な園路接続や設備系統は考えない。
ウ．植栽は最終期にまとめて行うことを原則とし、各期の景観や環境は考慮しない。
エ．各期で安全に利用できるまとまりを確保しつつ、将来の動線・設備接続・植栽成長を見込んで整備する。

答え・解説 正答：エ

ア：長期にわたる未施工地の安全・排水・環境管理上の問題が生じやすい。
イ：段階整備では最終形との整合を事前に確保する必要がある。
ウ：各期の利用環境や保全条件に応じた植栽計画が必要である。
エ：正しい。途中段階でも機能と安全を確保し、後期工事との整合が取れる計画が必要である。
総合解説：段階整備では、完成形を見据えながら各段階の安全性、利用性、施工性、維持管理性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：応用

高齢者利用が多い公園で、既存樹木を保全しながら休憩施設と園路を再配置する。最も適切な計画はどれか。

- ア．既存樹木をすべて残すため、園路の急勾配や段差は許容する。
- イ．園路を最短化するため、主要樹木の根元直近を掘削して直線化する。
- ウ．主要動線の勾配・段差を抑え、適切な間隔で休憩場所を設け、既存樹木の根系を避ける線形や施工方法を検討する。
- エ．休憩施設は維持管理を減らすため入口に一か所だけ設ける。

答え・解説 正答：ウ

ア：保全だけを優先し、利用者安全や移動円滑性を損なうのは適切でない。

イ：根系損傷や樹木安全性への影響が大きい。

ウ：正しい。利用者の移動負担、休憩性、樹木保全、施工影響を同時に調整している。

エ：高齢者利用が多い場合は、移動距離に応じた休憩機会の確保を検討する。

総合解説：造園計画では一つの目的だけを最大化せず、利用者特性、バリアフリー、既存資源保全、安全、維持管理を統合して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102 景観・設計 > 造園計画 | 難易度：応用

自然度の高い区域とイベント利用の多い区域を含む公園再整備で、最も適切な基本方針はどれか。

- ア．保全価値の高い区域を把握して負荷の大きい利用を避け、イベント利用は耐久性・アクセス性の高い区域へ誘導する。
- イ．利用需要が高ければ、自然度に関係なく全区域をイベント利用可能にする。
- ウ．自然環境保全のため、公園全体で人の利用を禁止する。
- エ．イベント区域を最も排水性の悪い低地に集約し、舗装や排水対策は行わない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。自然環境の保全と利用の強度を対応させ、区域ごとの役割を明確にしている。

イ：保全価値を無視した高負荷利用は自然環境を損なうおそれがある。

ウ：保全区域の設定は必要でも、公園全体の利用機能まで一律に否定する必要はない。

エ：集中利用による土壌・排水への負荷を考慮する必要がある。

総合解説：保全と利用を両立するには、環境感受性や利用強度を空間的に整理し、適地へ適切な機能を配置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：基礎

園路の正面に象徴的な樹木やモニュメントを見せる景観構成の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．すべての視線を遮る植栽を連続させ、対象物を見えなくする。

イ．主要な視線方向を意識して視軸をつくり、焦点となる対象を配置する。

ウ．焦点となる対象を視線方向と無関係な背後へ隠す。

エ．視点場を考えず、対象物の大きさだけで景観を決定する。

答え・解説 正答：イ

ア：焦点を見せる構成とは逆である。

イ：正しい。視軸と焦点対象を組み合わせることで方向性や印象を明確にできる。

ウ：視軸上の見え方を考える必要がある。

エ：景観は視点と対象の関係で成立する。

総合解説：ピスタや視軸は、見る位置、視線方向、焦点対象、周囲のフレーミングを組み合わせで構成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：基礎

眺望景観を構成する前景・中景・遠景の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．前景とは必ず高木だけで構成される区域をいう。

イ．見る位置からの距離に応じた景観要素の重なりとして捉え、全体の奥行きを構成する。

ウ．遠景は計画対象地の外にあるため、景観計画では考慮しない。

エ．中景をなくすほど、常に自然な奥行きが生まれる。

答え・解説 正答：イ

ア：前景は距離関係の概念であり、特定の材料に限定されない。

イ：正しい。距離帯ごとの要素の重なりが景観の奥行きやまとまりに影響する。

ウ：周辺の山並みや建築物など外部景観も眺望に影響する。

エ：奥行きは要素の配置や重なりによって形成され、単純に中景を除くことではない。

総合解説：景観構成では、敷地内部だけでなく周辺の遠景も含め、視点から見える要素の重なりを計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：基礎

同種の街路樹や照明を一定の間隔で反復配置することで得られやすい景観効果はどれか。

ア．必ず空間の方向性を消失させる。

イ．すべての景観要素を独立して見せ、統一感をなくす。

ウ．連続性やリズムを感じさせ、空間の方向性を強める。

エ．視点の移動に関係なく、景観変化を完全になくす。

答え・解説 正答：ウ

ア：反復配置はむしろ方向性を強調することがある。

イ：反復は統一感を生みやすい。

ウ：正しい。反復は一定の秩序や連続感を生みやすい。

エ：反復があっても樹形や背景、視点移動により景観は変化する。

総合解説：反復、連続、間隔の変化は景観にリズムや方向性を与える基本的な構成手法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：標準

小規模な休憩広場に非常に大きな構造物を配置する場合の景観上の検討として、最も適切なものはどれか。

ア．構造物は大きいほどランドマークになるため、周辺スケールは考えない。

イ．広場の大きさ、人の視点、周辺施設との比例関係を確認し、圧迫感や不調和が生じないように調整する。

ウ．人の視点高さは景観構成に関係しない。

エ．広場が小さいほど、構造物の高さを無条件に高くする。

答え・解説 正答：イ

ア：過大なスケールは圧迫感や景観的不調和を生むことがある。

イ：正しい。スケールは対象物単体ではなく、人・空間・周辺要素との関係で評価する。

ウ：利用者がどう見て感じるかを考えるうえで重要である。

エ：空間との比例関係を無視した一律の考え方である。

総合解説：景観のスケール感は、施設寸法、空間寸法、人の視点、背景との関係から判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：標準

歴史的建造物を主景として周辺を修景する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．建造物の素材・色彩・形態を把握し、主景を損なわない範囲で周辺要素の調和や必要な対比を調整する。
イ．主景より周辺施設を目立たせるため、すべて強い色彩に統一する。
ウ．歴史的建造物と周辺要素の関係を考えず、個別にデザインする。
エ．調和とはすべての材料・形状を完全に同一にすることである。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。主景を明確にしつつ、地域特性に合う全体構成を検討する。
イ：主景との競合が生じ、歴史的景観を損なう可能性がある。
ウ：景観は要素相互の関係で評価される。
エ：調和は同一化だけでなく、秩序や関係性によっても形成される。
総合解説：景観構成では、主景・従景の関係や周辺文脈を踏まえ、調和と対比を意図的に使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：標準

休憩空間に適度な落ち着きを与えつつ、見通しも確保したい。最も適切な景観構成はどれか。
ア．人の背丈を大きく超える密生低木で周囲を完全に遮蔽する。
イ．境界要素を一切設けず、車路や動的空間と連続させる。
ウ．視線を遮る施設を出入口正面に連続配置する。
エ．低木や高木の幹下空間などを利用して緩やかな境界をつくり、主要な見通しは確保する。

答え・解説 正答：エ

ア：見通しが失われ、防犯・安全面の課題が生じやすい。
イ：落ち着きを得るための空間的な分節が不足する。
ウ：出入口の視認性や利用者の安全を損なうおそれがある。
エ：正しい。囲まれ感と視認性を両立する構成である。
総合解説：囲繞感は壁のような完全遮蔽だけでなく、植栽の高さ・密度、樹冠、地形、施設配置により段階的に形成できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：標準

曲線園路を歩くにつれて景色が徐々に変化するよう計画する考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．視点の移動に伴う見え隠れや展開を意識し、連続する景観体験として構成する。

イ．一つの固定視点からだけ景観を評価し、移動中の見え方は考えない。

ウ．園路上のすべての地点から同じ対象を同じ大きさで見せることを目標とする。

エ．曲線園路では見通しが変化するため、景観計画は不可能である。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。移動による時間的・連続的な変化を扱うのがシークエンスの考え方である。

イ：園路景観では移動に伴う変化が重要である。

ウ：景観変化を意図的に組み立てる考え方とは異なる。

エ：曲線による見え隠れを計画的に利用できる。

総合解説：シークエンス景観は、歩行や移動に伴う視点変化を利用し、期待・発見・開放などの体験を連続的に構成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：応用

山並みを背景に持つ地域の公園で、地域らしい景観を形成する方法として最も適切なものはどれか。

ア．全国共通の意匠をそのまま導入し、周辺景観は評価しない。

イ．山並みへの眺望軸上に大規模な施設を配置し、視界を完全に遮る。

ウ．主要な眺望方向や地形、地域の植生・歴史的要素を把握し、それらと公園施設の形態・配置を調整する。

エ．地域らしさを出すため、地域と無関係な装飾を多数追加する。

答え・解説 正答：ウ

ア：地域特性を無視すると場所性が失われやすい。

イ：重要な眺望を損なう可能性がある。

ウ：正しい。地域固有の自然・歴史・文化を読み取り、背景景観との関係を設計に反映している。

エ：装飾量ではなく、地域の実際の自然・歴史・文化との関係が重要である。

総合解説：地域景観を扱う際は、地形、眺望、植生、歴史・文化、既存の街並みなどの文脈を調査し、設計へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 景観・設計 > 景観構成 | 難易度：応用

交差する園路の角部に植栽で景観の焦点をつくりたい。安全性も確保する場合、最も適切な方法はどれか。

- ア．交差部の中心に密生する高木・低木を置き、互いの接近を見えなくする。
- イ．安全性を確保するには交差部周辺の植栽をすべて禁止する。
- ウ．焦点を強くするため、園路標識も見えないほど植栽を密にする。
- エ．交差部の必要な視認性を確保しつつ、視線を妨げない位置・高さの植栽で焦点を構成する。

答え・解説 正答：エ

ア：交錯事故のリスクを高めるおそれがある。

イ：高さや位置を調整すれば植栽と視認性を両立できる。

ウ：案内性と安全性を損なう。

エ：正しい。景観効果と利用者同士の視認性を両立している。

総合解説：造園の景観構成は見た目だけでなく、動線、安全、案内性、維持管理を統合して成立させる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：基礎

都市の緑地を点ではなく連続・近接させて配置する意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．生物の移動や生息・生育環境のつながりを確保しやすくする。
- イ．すべての生物を一つの緑地に集中させ、他の緑地を不要にする。
- ウ．緑地間の距離を大きくして相互移動を困難にする。
- エ．生物の移動経路を遮断し、人の利用だけを優先する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。緑地の連続性は生態系ネットワークの形成に寄与する。

イ：生物多様性保全は単一地点への集中だけで達成できない。

ウ：連続性の確保とは逆の考え方である。

エ：自然環境保全の目的に反する。

総合解説：都市緑地では、拠点となる生息・生育地と、それらをつなぐ緑地や水辺のネットワークを意識することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：基礎

自然度の高い区域を造成する際、良好な表土を保全・再利用する主な理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．表土は下層土より常に締固めに適しているから。
- イ．表土を厚く締め固めるほど根の生育が良くなるから。
- ウ．表土には生物的・化学的な特徴がないため、単に色を合わせるため。
- エ．有機物や土壌生物、埋土種子などを含む生育基盤を活かしやすいから。

答え・解説 正答：エ

ア：植栽基盤としての価値と構造物基礎の締固め適性は別の問題である。

イ：過度な締固めは通気・透水性を低下させる。

ウ：表土は有機物や微生物等を含む重要な生育基盤である。

エ：正しい。良好な表土は植生回復に有用な資源となる。

総合解説：造成時の表土保全は、既存の土壌資源を活用し、植生回復や地域生態系への配慮につなげる方法の一つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：標準

希少な生物の生息場所が計画区域内で確認された場合の初期対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．施工後に別の場所へ植栽すればよいので、生息場所を全面改変する。
- イ．希少種の情報は工期に影響するため、調査結果を施工計画へ反映しない。
- ウ．生息場所の存在を確認しても、一般的な造成仕様を変更しない。
- エ．生息状況を確認し、まず改変の回避や範囲縮小を検討し、必要に応じて影響低減策を組み合わせる。

答え・解説 正答：エ

ア：代替措置だけを前提に重要な生息地を安易に改変するのは適切でない。

イ：保全対象の情報は施工範囲・時期等の判断に重要である。

ウ：環境条件に応じた回避・低減策の検討が必要である。

エ：正しい。保全上重要な場所では、影響を生じさせてから補うより、まず回避・低減を検討する。

総合解説：自然環境保全では、重要な生息・生育地への影響をできるだけ回避し、避けられない場合は低減・復元等を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：標準

自然環境の復元を目的とする植栽材料の選定として、最も適切なものはどれか。

ア．成長が速い外来植物であれば、生態的影響を確認せず優先する。

イ．見栄えを統一するため、全国どこでも同じ樹種・系統を使う。

ウ．周辺の植生や立地条件を調査し、地域の生態系との適合性を考慮して選定する。

エ．施工後の管理を簡単にするため、周辺植生とは無関係に単一種だけで構成する。

答え・解説 正答：ウ

ア：外来種には逸出・定着等の影響を確認すべきものがある。

イ：地域の気候・土壌・生態系への適合を無視している。

ウ：正しい。自然再生・保全では、地域の環境条件や既存植生との関係が重要である。

エ：目的によっては多様性や地域性を考慮する必要がある。

総合解説：自然環境保全を目的とする植栽では、周辺植生、立地、生物多様性への影響、将来管理まで含めて材料を選定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：標準

工事区域で繁殖力の強い外来植物が確認された。施工管理として最も適切なものはどれか。

ア．分布状況と対象種の特性を確認し、土砂・種子等の拡散を防ぐ方法で除去・処理・運搬を管理する。

イ．除去した植物体や種子を周辺緑地へそのまま移す。

ウ．対象種を確認せず、工事車両で踏み広げてから造成する。

エ．外来植物はすべて生態系へ無害なので、管理対象にしない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。施工による土砂移動や機械への付着で拡散させないことが重要である。

イ：拡散を助長するおそれがある。

ウ：種子や地下部を拡散させる可能性がある。

エ：種によっては在来生態系等へ影響を及ぼすため、種の特性を確認する必要がある。

総合解説：外来種対策では、対象種の同定と分布確認を行い、除去時・運搬時・土砂移動時の二次拡散を防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：標準

公園内の自然水辺を改修する場合、生物多様性に配慮した方法として最も適切なものはどれか。

ア．必要な治水・安全条件を確保しながら、水深や植生、岸辺形状に変化を持たせ、生息環境の多様性を残す。

イ．管理を容易にするため、全区間を同じ深さ・同じ垂直護岸に統一する。

ウ．水際植物をすべて除去し、裸地を維持することを自然保全の原則とする。

エ．安全対策を行わず、自然状態を残すことだけを最優先する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。単調な環境より、複数の微環境を残すことで多様な生物が利用しやすくなる。

イ：一律の形状は生息環境の多様性を低下させることがある。

ウ：水際植生は多くの生物の生息・繁殖場所になり得る。

エ：自然保全と利用者安全の両立が必要である。

総合解説：水辺の保全では、地形、水深、流れ、植生などの多様性を確保しつつ、安全・維持管理条件と調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：標準

夜行性生物の利用が確認されている緑地に隣接して園路照明を設ける。最も適切な配慮はどれか。

ア．安全上必要な照度を確保しつつ、照射範囲・方向・点灯時間などを調整し、生息環境への不要な光を抑える。

イ．緑地内部まで常時最大照度で照らす。

ウ．生態系に配慮するため、利用者安全に必要な照明もすべて撤去する。

エ．照明の向きは生態影響に関係しないので、上方・周辺へ広く照射する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。安全確保と光環境への影響低減を両立する考え方である。

イ：不要な光は夜行性生物等の行動へ影響する可能性がある。

ウ：安全性との両立が必要であり、一律撤去が適切とは限らない。

エ：照射方向や漏れ光の管理は影響低減に関係する。

総合解説：自然環境に近接する照明は、必要性、照度、方向、時間帯を整理し、利用者安全を確保しながら生態影響を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：応用

工事区域付近で繁殖期に利用される生息地が確認された。工程調整として最も適切なものはどれか。

ア：対象生物の利用時期と施工影響を確認し、必要に応じて高影響作業の時期変更や範囲縮小を検討する。

イ：繁殖期であることが分かっている、すべての作業を通常工程で実施する。

ウ：工期を守るため、生息状況の追加確認を禁止する。

エ：対象生物がいる場合は、影響の程度に関係なく工事全体を永久に中止する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。対象生物の生活史と工事による騒音・伐採・立入り等の影響を対応させて調整する。

イ：重要な繁殖場所への影響を回避・低減できる可能性を検討すべきである。

ウ：保全上重要な情報を確認せず進めるのは適切でない。

エ：影響評価に基づいて回避・低減策を検討するのが合理的である。

総合解説：施工時の生態配慮では、対象生物の繁殖・移動等の時期を把握し、影響の大きい作業の時期・範囲・方法を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120 景観・設計 > 自然環境保全 | 難易度：応用

自然再生を目的とする植栽工事が完了した後の管理として、最も適切なものはどれか。

ア：完成検査に合格すれば、その後の生態的变化は確認しない。

イ：当初計画は必ず正しいため、結果にかかわらず管理方法を変更しない。

ウ：目標外の変化が生じた場合は、原因を確認せず全植栽を撤去する。

エ：植生や対象生物、土壌・水分等を継続的に確認し、目標との差を評価して管理方法を必要に応じて修正する。

答え・解説 正答：エ

ア：自然環境は時間とともに変化するため、目標達成の確認が必要である。

イ：結果を評価して必要なら管理を修正することが重要である。

ウ：原因分析と段階的な対応が必要である。

エ：正しい。モニタリング結果を次の管理へ反映する順応的な考え方である。

総合解説：自然環境保全では、施工完了を終点とせず、モニタリングにより状態を把握し、必要に応じて管理を改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：基礎

植栽樹木の現場受入れ時に確認する事項として、最も適切なものはどれか。

- ア．樹種・寸法・樹形・根鉢・損傷や病害虫の有無など、設計図書と品質を確認する。
- イ．樹高だけが合っていれば、根鉢や枝幹の損傷は確認しない。
- ウ．数量は完成後に確認し、搬入時は一切記録しない。
- エ．病害虫の有無は植付け後に確認すればよい。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。植付け前に材料の適合性と健全性を確認する。

イ：根鉢や枝幹の状態も活着・品質に直結する。

ウ：受入れ段階で数量・規格等を確認することが施工管理上重要である。

エ：問題のある材料を持ち込まないため、受入れ時の確認が必要である。

総合解説：植栽材料は施工後に交換が困難になるため、搬入時に設計図書との一致と品質を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：基礎

搬入した樹木を当日中に植え付けられず、一時仮置きする場合の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．根鉢を乾燥させて軽くしてから植え付ける。
- イ．根鉢の包装をすべて外し、風通しのよい場所へ長時間放置する。
- ウ．根鉢や根を乾燥させないように保護し、強風・直射日光等の影響を抑えて管理する。
- エ．枝葉がしおれても植付け後に回復するため、仮置き管理は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：根系乾燥は活着不良の原因になる。

イ：根の乾燥や崩壊を招くおそれがある。

ウ：正しい。根系の乾燥防止は活着確保の基本である。

エ：植付け前の水分ストレスを抑える必要がある。

総合解説：植栽材料の品質は搬入後も変化するため、植付けまでの保湿・養生・取扱いが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：基礎

樹木の植付け高さに関する基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．倒伏防止のため、幹の分岐部まで土中に埋める。

イ．排水条件に関係なく、根鉢上端を常に周囲地盤より大幅に低くする。

ウ．根元の位置が周囲の仕上がりや排水条件に対して不自然に深植え・浅植えにならないよう調整する。

エ．植付け高さは支柱で調整できるため、根鉢位置は考慮しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：過度な深植えは根元環境を悪化させる。

イ：滞水しやすくなる場合があり、一律には適切でない。

ウ：正しい。根元周辺の通気・排水や安定性を考慮して適切な高さに据える。

エ：支柱は支持のためであり、植付け高さの不適切さを補うものではない。

総合解説：植付け高さは、根元の健全性、排水、周囲仕上がり、樹木の安定を考慮して決定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：基礎

植付け時の水極めの目的として、最も適切なものはどれか。

ア．植穴内を長期間水没させ、根の呼吸を止める。

イ．根鉢を土から浮かせて、空隙を大きく残す。

ウ．根鉢と周囲土の隙間に土をなじませ、十分な水分を与える。

エ．支柱を不要にするため、根鉢を泥状にして固定する。

答え・解説 正答：ウ

ア：長期滞水は根系に悪影響を与える。

イ：根鉢周囲の空隙を減らし土をなじませるのが目的である。

ウ：正しい。根と土の接触を良くし、初期の水分を確保する。

エ：水極めは支柱の代替ではない。

総合解説：水極めは植付け直後の重要な作業であり、根鉢周囲の土をなじませ、活着に必要な水分を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：標準

樹形に表裏がある景観木を植え付ける際の据付けとして、最も適切なものはどれか。

- ア．吊り上げた時点の向きのまま、周囲を確認せず据え付ける。
- イ．設計意図、主要視点からの見え方、枝張り、周辺施設との干渉を確認して向きを決める。
- ウ．枝張りは将来剪定できるため、建築物との干渉を考えない。
- エ．すべての樹木の同じ方位面を必ず園路側へ向ける。

答え・解説 正答：イ

ア：設計意図や主要視点との不整合が生じる。

イ：正しい。景観木は樹高だけでなく、樹形と配置関係まで確認して据え付ける。

ウ：将来成長と施設干渉を考慮すべきである。

エ：樹形や現場条件に応じた個別判断が必要である。

総合解説：植栽施工では、平面位置だけでなく樹木の向き、樹冠の広がり、将来成長、主要視点を確認して完成景観を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：標準

植付け後の点検で、支柱の結束材が幹に食い込み始めていることを確認した。対応として最も適切なものはどれか。

- ア．倒伏していないため、結束材はそのまま強く締め続ける。
- イ．幹の成長を止めるため、食い込んだ位置より上で幹を切り戻す。
- ウ．樹木の安定状態を確認し、必要に応じて結束を調整・更新して幹への損傷を防ぐ。
- エ．結束部の食込みを隠すため、その上から新しい結束材を重ね巻きする。

答え・解説 正答：ウ

ア：食込みを放置すると樹皮や形成層を傷めるおそれがある。

イ：支柱の結束管理のために幹を切るのは不適切である。

ウ：正しい。活着状況と支持の必要性を確認しながら、結束部の食込み・擦れを防ぐ。

エ：原因となる古い結束を放置したまま重ねると、損傷を悪化させるおそれがある。

総合解説：支柱は設置して終わりではなく、樹木の成長・活着に応じて緩み、擦れ、食込みを点検し、必要に応じて調整・撤去する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：標準

植付け後に根元周辺へマルチングを行う目的として、最も適切なものはどれか。

ア．幹の根元へ厚く盛り上げ、樹皮を常時湿潤に保つ。

イ．根域の通気を完全に遮断することを目的とする。

ウ．土壌水分の急激な変動や雑草発生を抑えるなど、根域環境を安定させる。

エ．排水不良地で滞水を増やすために行う。

答え・解説 正答：ウ

ア：幹元へ過度に接触させると腐朽等の原因になり得る。

イ：根系には通気が必要である。

ウ：正しい。マルチングは乾燥抑制や地表環境の安定化に役立つ。

エ：滞水を増やすことは目的ではない。

総合解説：マルチングは根域環境を安定させるが、材料・厚さ・幹元との距離を適切に管理する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：標準

植穴を掘ったところ、降雨後に長時間水が抜けない層が確認された。植付け前の対応として最も適切なものはどれか。

ア．樹木を植えれば根が水を吸うため、そのまま施工する。

イ．排水不良の原因と範囲を確認し、必要な排水・土壌改良を行ってから植え付ける。

ウ．植穴底をさらに締め固め、水を保持しやすくする。

エ．水が抜けない場合は根鉢を完全に水中へ沈めて植える。

答え・解説 正答：イ

ア：排水不良が強い場合、根腐れや活着不良につながる。

イ：正しい。根域の長期滞水を避けるため、植付け前に基盤条件を改善する。

ウ：排水性をさらに低下させるおそれがある。

エ：多くの樹木で根系の酸素不足を招く。

総合解説：植栽施工では、材料の品質だけでなく植栽基盤の排水・通気・土壌条件を確認し、問題があれば先に是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：標準

植栽位置の直下に既設配管があることが施工前確認で判明した。最も適切な対応はどれか。

ア．配管の位置・管理条件と樹木の根系・将来成長を確認し、植栽位置や樹種、保護方法を関係者と調整する。

イ．図面に植栽位置があるため、配管を確認せず予定どおり根鉢を掘削する。

ウ．配管を樹木根で覆えば保護されるため、そのまま植える。

エ．すべての配管を移設することだけが唯一の対応である。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。地下設備と根系の双方の維持管理性を考えて調整する。

イ：既設配管損傷や根域不足のリスクがある。

ウ：根系による干渉や点検・補修性への影響がある。

エ：植栽位置・樹種変更等も含めて合理的な調整を検討する。

総合解説：植栽施工では、地下埋設物、構造物、舗装と根系空間の競合を事前に確認し、将来管理まで見据えて調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：標準

夏期に植え付けた樹木の初期養生として、最も適切なものはどれか。

ア．毎日同じ量を必ず灌水し、降雨や土壌水分は確認しない。

イ．土壌水分、葉のしおれ、支柱の緩みなどを継続的に確認し、気象と土壌条件に応じて灌水等を調整する。

ウ．葉がしおれても、完成検査後は施工者が確認する必要はない。

エ．支柱は設置直後から緩みや擦れを確認しなくてよい。

答え・解説 正答：イ

ア：過湿や水不足を防ぐには条件に応じた調整が必要である。

イ：正しい。植付け直後は根系が十分に機能していないため、状態を観察しながら管理する。

ウ：活着までの初期管理は重要である。

エ：風や樹木の動きで緩み・食込み等が生じるため点検が必要である。

総合解説：初期養生では、水分管理、樹勢、支柱・結束、土壌状態などを観察し、気象条件に応じて適切に対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：応用

大径木を移植する工程で、根回し後から掘取り・運搬・植付けまでの管理として最も適切なものはどれか。

ア．根回し後の状態を確認せず、工期だけで掘取り日を決める。

イ．運搬を容易にするため根鉢を崩し、細根を露出させる。

ウ．樹勢、根系形成、移植適期を確認し、掘取り時の根鉢保護、運搬中の乾燥・損傷防止、植付け後の支持・灌水を一連で管理する。

エ．植付け後は根鉢が大きいので支柱や水分管理を行わない。

答え・解説 正答：ウ

ア：樹勢や根系形成、季節条件を考慮する必要がある。

イ：根鉢損傷と乾燥は活着率を低下させる。

ウ：正しい。大径木移植は準備から活着管理まで各工程の連続性が重要である。

エ：大径木ほど風荷重や水分ストレスへの管理が重要になる。

総合解説：大径木移植では、根回し、掘取り、根鉢保護、運搬、植付け、支持、灌水、活着確認を一体の工程として管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132 施工・管理 > 植栽施工 | 難易度：応用

植栽工事の完成確認として、最も適切なものはどれか。

ア．樹種・規格・位置・樹形・植付け状態・支柱・土壌・灌水状況などを設計図書と照合し、不具合を是正する。

イ．本数だけ一致すれば完成とし、樹種や規格は確認しない。

ウ．植付け位置がずれていても、樹木なので成長すれば問題ない。

エ．支柱が幹へ食い込んでいても、倒伏していなければ合格とする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。植栽の完成品質は材料・位置・施工状態・養生まで総合的に確認する。

イ：数量だけでは設計品質を確認できない。

ウ：配置は動線・景観・施設干渉に関わる重要な出来形である。

エ：樹体を傷める不具合は是正が必要である。

総合解説：植栽工事の完成検査では、設計図書との一致、材料品質、施工状態、安全性、初期管理条件を総合的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：基礎

公園施設の基礎位置を施工する前の位置出しとして、最も適切なものはどれか。

ア．周囲の仮設物を目測の基準として、設計座標を確認せず位置を決める。

イ．基準点や設計図書を用いて中心位置・高さを確認し、施工中に失われないよう必要な控えを設ける。

ウ．基礎掘削後に施設の位置を決めればよいので、施工前の位置確認は行わない。

エ．隣接施設との離隔は完成後に調整できるため、位置出しでは確認しない。

答え・解説 正答：イ

ア：目測だけでは位置・高さの精度を確保できない。

イ：正しい。基準点から位置・高さを設定し、施工中も再確認できるよう管理する。

ウ：掘削前に位置を確定し、干渉や出来形を確認する必要がある。

エ：離隔や動線との関係は施工前に確認すべき重要事項である。

総合解説：施設施工では、基準点・設計図書に基づく位置出しと高さ管理を行い、後工程でも確認できるよう控えや記録を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：基礎

鋼製の柵を補修塗装する際の施工として、最も適切なものはどれか。

ア．既存のさびや浮いた塗膜の上から、そのまま仕上げ塗料だけを厚く塗る。

イ．さびや脆弱な旧塗膜、汚れを適切に除去して下地を整え、仕様に応じた塗装を行う。

ウ．塗装面が湿潤しているほど密着性が高まるため、乾燥状態は確認しない。

エ．腐食による断面欠損があっても、塗装すれば構造上の確認は不要である。

答え・解説 正答：イ

ア：不良下地を残すと新しい塗膜の早期剥離につながりやすい。

イ：正しい。防食塗装では下地処理が塗膜性能を左右する。

ウ：材料・仕様に応じた適切な施工環境を確保する必要がある。

エ：著しい断面欠損は安全性に関わるため、塗装だけで済ませず状態を評価する。

総合解説：鋼製施設の補修では、腐食状態を確認し、下地処理を十分に行ったうえで指定の塗装系を施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：基礎

ベンチや柵など固定式公園施設の基礎・アンカー施工で最も重要な考え方はどれか。

ア．見た目が水平なら、アンカーの締付けや基礎寸法は確認しない。

イ．将来撤去しやすくするため、アンカーを仮止めのまま供用する。

ウ．設計図書に基づき位置・高さ・固定状態を確認し、使用時の荷重に対して安定させる。

エ．基礎は地表から見えないため、設計図書との照合は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：外観だけでは固定性能を確認できない。

イ：供用時の安全性を損なう。

ウ：正しい。固定不良は転倒・がたつき等の安全上の問題につながる。

エ：不可視部分こそ施工中の確認・記録が重要である。

総合解説：施設基礎は完成後に見えにくくなるため、施工段階で寸法・位置・固定・材料品質を確実に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：標準

小規模な擁壁の背面に雨水が集まりやすい現場で、施設施工上の対応として最も適切なものはどれか。

ア．設計に基づいて透水層や排水経路を確保し、背面に水圧がたまりにくいよう施工する。

イ．背面土を不透水性材料だけで密閉し、排水経路を設けない。

ウ．排水不良があっても擁壁表面に塗装すれば背面水の影響はなくなる。

エ．水抜き等の排水施設は土で詰め、外観を優先する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。背面排水は水の滞留を抑え、過大な水圧や地盤軟化を防ぐうえで重要である。

イ：排水経路を失うと背面水圧が増大するおそれがある。

ウ：表面塗装だけでは背面にたまる水を処理できない。

エ：排水機能を塞ぐと本来の機能を失う。

総合解説：擁壁等では、設計された排水層・水抜き・排水先を適切に施工し、背面水を滞留させないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：標準

屋外の木製デッキを施工する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．木材の乾湿変化はないため、部材間の納まりや排水は考慮しない。

イ．水がたまりやすいよう部材同士を完全に密着させ、通気を遮断する。

ウ．固定金物は材質や腐食条件を確認せず、屋内用のものを任意に使用する。

エ．設計仕様に従って固定し、水が滞留しにくい納まりや部材の状態を確認して施工する。

答え・解説 正答：エ

ア：屋外木材は含水状態の変化を受けるため、納まりや排水への配慮が必要である。

イ：水の滞留は腐朽を促進する要因になり得る。

ウ：屋外環境に適した材料・仕様を確認する必要がある。

エ：正しい。固定状態と排水・通気等を考慮し、木材が不必要に湿潤し続けない納まりとする。

総合解説：木製施設では、設計仕様に沿った固定とともに、雨水の滞留を避け、部材の腐朽や劣化を抑える施工が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：標準

給水管や電線管を埋設した後に舗装する工事で、最も適切な施工管理はどれか。

ア．舗装後に位置を推定できるので、埋設前の確認は不要である。

イ．埋戻し前に位置・深さ・接続状態等を確認し、必要な記録を残してから次工程へ進む。

ウ．配管ルートは現場判断で自由に変更し、設計者・管理者へ共有しない。

エ．埋戻しは配管の保護状態を確認せず、一度に重機で締め固める。

答え・解説 正答：イ

ア：完成後は確認困難になるため施工中に記録すべきである。

イ：正しい。完成後に見えなくなる不可視部分は施工中の確認・記録が重要である。

ウ：将来維持管理や他施設との干渉に問題が生じる。

エ：配管損傷を防ぐため、適切な材料・方法で施工する必要がある。

総合解説：施設施工では、埋設物や基礎など不可視部を次工程前に確認し、出来形・写真等の記録を残すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：標準

供用中の公園内で園路改修工事を行う場合の安全管理として、最も適切なものはどれか。

ア．利用者が注意すればよいので、工事区域に柵や案内を設けない。

イ．工事区域を明確に区画し、安全な迂回動線と案内を確保し、資材・重機と利用者の動線を分離する。

ウ．重機の巡回範囲を園路へ重ね、誘導員なしで作業する。

エ．迂回路を設けず、工事区域の資材の間を通行させる。

答え・解説 正答：イ

ア：第三者が立ち入る可能性を前提に安全対策を講じる必要がある。

イ：正しい。供用しながらの工事では第三者災害防止が重要である。

ウ：利用者との接触リスクが高い。

エ：転倒・接触等の危険がある。

総合解説：供用中の公園工事では、利用者の年齢や行動特性も考慮し、工事区域の隔離、案内、迂回、重機動線分離を徹底する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：応用

園路舗装、照明配管、植栽を同一区域で施工する。手戻りを抑える工程として最も適切なものはどれか。

ア．舗装を完成させた後、位置確認のため全面を掘り返して配管する。

イ．照明基礎と樹木根鉢を同一位置に計画し、現場でどちらかを削る。

ウ．各工種が独立して施工し、共通の高さ基準や位置基準を持たない。

エ．埋設配管や基礎の位置を先に確認・施工し、不可視部の検査後に舗装を仕上げ、植栽根系との干渉も調整する。

答え・解説 正答：エ

ア：手戻りと舗装品質低下を招く。

イ：事前の取り合い調整が不足している。

ウ：出来形不整合が生じやすい。

エ：正しい。完成後に掘り返す工事を避け、工種間の干渉を事前調整している。

総合解説：複数工種が重なる公園工事では、施工順序、不可視部確認、高さ・位置基準、植栽根系との干渉を事前に調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 施工・管理 > 施設施工 | 難易度：応用

公園施設工事の完成検査として、最も適切なものはどれか。

ア．外観がきれいであれば、固定状態や排水機能は確認しない。

イ．設計図書との差異は、使用できれば記録せずそのままにする。

ウ．供用開始後に利用者から指摘があった項目だけ確認する。

エ．位置・寸法・仕上げ・固定・排水・安全性・作動状況等を設計図書と照合し、必要な是正後に供用する。

答え・解説 正答：エ

ア：外観だけでは安全性・機能性を確認できない。

イ：変更内容は適切に確認・記録し、必要な承認・是正を行う。

ウ：供用前に施工者・監督側で必要な検査を行うべきである。

エ：正しい。施設ごとの機能と安全、出来形を総合的に確認する。

総合解説：完成検査は見た目の確認ではなく、設計図書との整合、出来形、品質、安全、機能、維持管理性を確認する工程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 施工・管理 > 病虫害・樹木診断 | 難易度：基礎

樹木に葉の変色が見られた場合の初期診断として、最も適切なものはどれか。

ア．症状の部位・広がり・発生時期を観察し、病虫害だけでなく土壌・水分・気象等の条件も確認する。

イ．葉が黄色なら必ず同じ病原菌が原因と判断する。

ウ．原因を調べず、最初から強い薬剤を散布する。

エ．樹木全体を見ず、落ちた葉1枚だけで確定診断する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。同じ症状でも生物的要因と非生物的要因があり、観察と周辺条件の確認が必要である。

イ：葉色変化には水分、根傷み、養分、病虫害等さまざまな原因がある。

ウ：原因を把握せずに防除するのは合理的でない。

エ：症状の分布や樹勢、周辺環境も確認する必要がある。

総合解説：樹木の異常診断では、症状の特徴と分布、樹勢、土壌・水分・施工履歴、病虫害の有無を総合して原因を絞り込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：基礎

病害虫の総合防除に関する考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．病害虫が確認される前から、常に同じ農薬を最大量散布する。
イ．防除は薬剤散布だけを意味し、剪定や衛生管理は含まれない。
ウ．発生しにくい環境づくりや予察・観察を行い、必要に応じて物理的・生物的・化学的手段を組み合わせる。
エ．発生状況を記録すると判断が複雑になるため、記録しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：予防・観察や適切な手段選択を無視している。
イ：被害部除去や環境改善なども防除手段になり得る。
ウ：正しい。総合防除は予防・予察を重視し、複数の手段を適切に組み合わせる。
エ：発生推移や防除効果の評価に記録は有用である。
総合解説：総合防除では、予防、モニタリング、適切な防除手段の選択と効果確認を組み合わせ、必要以上の薬剤依存を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：標準

同じ列植樹のうち、低く水がたまる数本だけで葉の黄化と生育不良が見られる。最初に疑うべき視点として最も適切なものはどれか。
ア．症状がある以上、必ず伝染性病害と断定する。
イ．排水不良や根系の酸素不足など立地条件を確認し、病害虫の有無と併せて原因を切り分ける。
ウ．原因確認をせず、全列植樹へ同じ薬剤を散布する。
エ．黄化は樹木診断の対象外なので経過観察だけとする。

答え・解説 正答：イ

ア：症状分布が環境条件に対応する場合は非生物的要因も検討する。
イ：正しい。局所的な地形・水分条件と症状の分布が対応しているため、非生物的要因も重要な手掛かりとなる。
ウ：不要な薬剤使用になる可能性がある。
エ：根系や土壌環境の異常が隠れている可能性がある。
総合解説：診断では症状の種類だけでなく、発生分布と環境条件の対応を見て、生物的・非生物的要因を切り分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：標準

利用者の多い園路上に、大径の枯枝が張り出していることを点検で確認した。最も適切な初動はどれか。

ア．落枝するまで状況を確認するため、園路を通常どおり供用する。

イ．必要に応じて立入制限等で利用者安全を確保し、危険度を評価したうえで速やかに除去等の措置を行う。

ウ．枯枝以外の樹形がよければ、危険性の評価は不要である。

エ．写真だけ撮影し、利用者への安全措置は行わない。

答え・解説 正答：イ

ア：人身事故につながる可能性がある。

イ：正しい。差し迫った危険はまず第三者の安全を確保し、その後適切な措置を講じる。

ウ：局所的な危険枝でも事故原因となり得る。

エ：記録だけでは差し迫った危険を低減できない。

総合解説：樹木点検では、異常の記録だけでなく、利用頻度や落下範囲を考慮し、必要に応じて応急的な安全措置と本格対策を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：標準

樹木の根元周辺で地盤の隆起、幹の傾きの増大、根の腐朽が確認された。対応として最も適切なものはどれか。

ア．葉が緑であれば根系の異常は安全性に関係しないと判断する。

イ．幹の傾きが増えても、支柱なしで経過観察を続けることを原則とする。

ウ．倒伏リスクを考慮して周辺利用を管理し、必要に応じて専門的な診断を行い、措置を検討する。

エ．根元を舗装で固めれば、原因にかかわらず倒伏防止になる。

答え・解説 正答：ウ

ア：樹冠が緑でも根系の支持力が低下している場合がある。

イ：異常の程度や利用状況に応じて安全措置・診断が必要である。

ウ：正しい。根元・根系の異常は支持力低下に関係するため、安全性を優先して評価する。

エ：根系環境を悪化させる可能性があり、原因に応じた対策ではない。

総合解説：樹木の安全診断では、幹だけでなく根元・根系、地盤、傾斜、腐朽、周辺利用状況を総合して評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：標準

台風通過後の都市公園で樹木管理を行う場合、最も適切な対応はどれか。

ア．定期点検の予定日まで、台風による影響は確認しない。

イ．落葉量だけを確認し、幹・枝・根元は見ない。

ウ．被害の可能性が高い立入区域からではなく、利用されない場所だけを点検する。

エ．利用者が多い区域や被害が疑われる樹木を優先し、傾き、亀裂、折損枝、根元異常などを点検する。

答え・解説 正答：エ

ア：異常気象後は臨時点検が必要となる場合がある。

イ：折損・亀裂・傾き等の危険兆候を見落とす。

ウ：第三者への影響が大きい場所を優先する考え方が必要である。

エ：正しい。強風後は通常時にない損傷が生じるため、利用状況と危険性を踏まえて点検する。

総合解説：台風・大雪等の後は、通常点検とは別に損傷の有無を確認し、危険があれば利用制限・枝除去・診断等につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：標準

住宅地に隣接する公園で農薬を使用する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．公園樹木であれば、農薬のラベル確認は不要である。

イ．対象病害虫と必要性を確認し、登録内容・使用方法を守り、飛散や利用者・周辺住民への影響を抑える措置と記録を行う。

ウ．風が強いほど広範囲に散布できるため、飛散防止は考えない。

エ．使用日時・場所・対象植物・薬剤等の記録は残さない。

答え・解説 正答：イ

ア：農薬は登録内容や使用上の注意を確認して適正に使用する必要がある。

イ：正しい。公園等では農薬使用低減の検討、適正使用、周辺配慮、使用記録が重要である。

ウ：周辺への飛散を抑える必要がある。

エ：適正管理のため使用記録を残すことが求められる。

総合解説：公園・街路樹等の病害虫防除では、まず発生状況を確認し、必要性を判断したうえで、農薬を使う場合は適正使用と周辺への飛散・曝露低減を徹底する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：応用

舗装改修後から街路樹の樹勢が低下し、一部に病害虫も見られる。最も適切な診断の進め方はどれか。

ア．病害虫が一匹でも見つければ、それだけを唯一の原因と断定する。

イ．舗装による根系環境・土壌通気排水・根傷みと病害虫の発生を併せて調査し、主因と二次的要因を整理する。

ウ．舗装工事は樹木の根系に影響しないため、施工履歴は調べない。

エ．原因を区別せず、全樹木を同じ方法で強剪定する。

答え・解説 正答：イ

ア：衰弱樹に二次的に病害虫が発生している可能性もある。

イ：正しい。樹勢低下は複数要因が重なることがあり、施工履歴と生物的要因を統合して評価する。

ウ：掘削・締固め・被覆等が根系環境へ影響することがある。

エ：原因に合わない処置は樹勢をさらに低下させる可能性がある。

総合解説：樹木診断では、病害虫だけに注目せず、根系、土壌、水分、施工履歴、気象、管理履歴を統合して原因を特定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150 施工・管理 > 病害虫・樹木診断 | 難易度：応用

樹木点検で複数の異常が確認された場合の管理方針として、最も適切なものはどれか。

ア．異常の程度、落枝・倒伏した場合の被害、利用状況を評価し、応急措置、本格対策、経過観察を適切に選択する。

イ．異常が一つでもあれば、全樹木を一律に伐採する。

ウ．見た目が同じ樹種なら、すべて同じ処置を行う。

エ．危険度が高くて、景観価値が高ければ安全措置を行わない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。健全度だけでなく、周辺の人・施設への影響を考慮して措置の優先度を決める。

イ：異常の程度や危険性に応じた判断が必要である。

ウ：個体ごとの異常・立地・利用状況が異なる。

エ：利用者安全を確保したうえで保全・対策を検討する必要がある。

総合解説：樹木リスク管理では、異常の有無だけでなく、発生確率と被害の大きさ、利用者への曝露を考慮して対策を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21